

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

学科名: エコ・コミュニケーション科(2年制) ドッグトレーナー専攻

授業科目名	授業時間数
ドッグトレーニング演習Ⅰ	60
ドッグトレーニング演習Ⅱ	60
犬の行動学	60
犬との暮らし方教室	120
ドッグスポーツ演習	60
アニマルベーシック	30
動物の体のしくみ	30
動物の健康管理	30
アニマルトレーニング	60
次世代のための環境教育	30
アニマルヒストリー	30
ドッグトレーニング演習Ⅲ	60
ドッグトレーニング演習Ⅳ	60
警察犬トレーニング	60
介助犬トレーニング	60
セラピー犬トレーニング	60
犬の飼養管理	60
コンパニオンドッグ	60
問題行動トレーニング	60
学内犬飼育演習	60
動物栄養学	60
繁殖と遺伝	30
ナチュラルケア	30
グルーミング概論	30
グルーミング演習	60
人と動物との関係学	30
動物の法律	30
合計	1380 (92)

※()内は単位数

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	ドッグトレーニング演習 I (Practice of Dog training I)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	左藤 珠代
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 木曜日1時限

【授業の学習内容】

犬の訓練士として、犬が人間社会で暮らしていく為のしつけを理解し、適切な指示の出し方を学ぶことが必要。この授業ではJKCの訓練科目から正しい姿勢・リードの扱い方、人や犬の動きの基本を学び、学内飼育犬と共に実践する。

※実務経験者

社団法人ジャパンケネルクラブ(JKC)公認訓練士。犬の飼い主向けにドッグランや犬のしつけ・アジリティ教室等を運営するドッグトレーナーが授業講師として担当する。

【到達目標】

JKCの訓練科目を理解すると共に、犬を足元つけて指示を与え、その状態を維持した歩行や基本の指示出しができるようになる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	ハウス、ゲージ、サークルの設置、犬の出し入れ、リードの付け方
2回目	犬の出し入れ、基本姿勢(正しいヒールポジション)、リードの持ち方
3回目	「停座」指示の出し方、リードの使い方、停座の正しいフォームへの導き方
4回目	指示の重要性、褒めるタイミングと褒め方、犬にとっての褒美とは
5回目	「脚側停座」正しい位置と導き方及び指示、訓練用語
6回目	「脚側停座」指示(リード使い、体の動き、犬の動線)「脚側行進」指導手の歩き方
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	脚側行進、まわれ右、脚側停座、(リード使い、指導手の指示の安定)
9回目	脚側行進、まわれ右、左回り、脚側停座(リード使い、指導手の指示の安定)
10回目	同上 反復練習
11回目	同上 反復練習
12回目	同上 反復練習
13回目	同上 反復練習
14回目	リード使い、声符、体符、基本姿勢、右回り、左回り、脚側行進、脚側停座 振り返り
15回目	前期復習

準備学習
時間外学習

評価方法

中間評価(筆記):20%
授業参加度:20%
期末評価(実技):60%

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	ドッグトレーニング演習 I (Practice of Dog training I)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	左藤 珠代
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜日1時限

【授業の学習内容】

犬の訓練士として、犬が人間社会で暮らしていく為のしつけを理解し、適切な指示の出し方を学ぶことが必要。この授業ではJKCの訓練科目から正しい姿勢・リードの扱い方、人や犬の動きの基本を学び、学内飼育犬と共に実践する。

※実務経験者

社団法人ジャパンケネルクラブ(JKC)公認訓練士。犬の飼い主向けにドッグランや犬のしつけ・アジリティ教室等を運営するドッグトレーナーが授業講師として担当する。

【到達目標】

JKCの訓練科目を理解すると共に、犬を足元つけて指示を与え、その状態を維持した歩行や基本の指示出しができるようになる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	JKC 家庭犬訓練試験初等科、実施要項説明
2回目	アイコンタクト、トリーツの使い方、トリーツの意義
3回目	「待て」指導手はどういう意識を持って犬に教えるべきか
4回目	「伏臥」誘導の仕方、姿勢のキープ
5回目	「伏臥からの停座」立止りからの停座、伏臥からの停座は異なることを指導手が意識して教える
6回目	アイコンタクトを停座、伏臥、待ての課目と組み立てる
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	「立止」犬のフォーム 姿勢のキープ
9回目	「招呼」基本は脚側停座、招呼はゴールである脚側停座の徹底である
10回目	「脚側行進」出発、停止時の脚側停座の位置を意識する
11回目	脚側行進、停座、伏臥、右回り、左回り、停座招呼、脚側停座、アイコンタクト
12回目	脚側行進、停座、伏臥、右回り、左回り、停座招呼、脚側停座、アイコンタクト
13回目	後期評価及び振り返り①
14回目	振り返り②
15回目	1年間 総復習

準備学習
時間外学習

評価方法

中間評価(筆記):20%
授業参加度:20%
期末評価(実技):60%

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	ドッグトレーニング演習Ⅱ (Practice of Dog training Ⅱ)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	金川 英樹
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜日4時限

【授業の学習内容】

ドッグトレーナーとして、人と犬が互いに幸せに人間社会で暮らす為のしつけを学ぶ事が必要である。この授業では、家庭犬トレーナー(インストラクター)として必要な基礎知識や犬を扱うスキル(リードや報酬の使い方、コマンドの出し方、犬に対する観察力等)を学ぶために、ドッグトレーナーから指導を受け学内飼育犬での実践を行う。
また、要所において振り返りや意見交換を行い、自分自身の課題を見つけるきっかけとする。

※実務経験者

犬のしつけ教室・幼稚園を運営する、JAHA認定の家庭犬しつけインストラクター

【到達目標】

一般の愛犬家からのニーズが高まっている犬に優しい正の強化を応用したトレーニングを実践できるようになる
トレーニングの実践だけでなく、犬の学習におけるプロセスを理解した上で行えるようになる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	オリエンテーション(授業内容の説明等)と基礎講座(犬のしつけとその必要性) 図可能であればWanLifeの犬を連れてのデモンストレーション
2回目	基礎講座:犬の行動と習性 報酬について 実技:リードの扱い方・フードの使い方(デリバリー) ※学内飼育犬は不要
3回目	実技:褒める(報酬) リードの管理 犬の扱い方 犬と遊ぶ
4回目	実技:リードの管理 犬と遊ぶ ハンドリング基礎(ターゲティング)
5回目	講座:犬の行動学 犬のサイン(犬語力)を知る 実技:犬の気持ちを体験 グループミーティング ※学内飼育犬は不要
6回目	実技:犬に分かりやすく伝えるためのトレーニング① 犬のサインを知る
7回目	筆記テスト(犬のサイン)/実技テスト(人のみで行う実技 リードの扱い・フードの扱い)
8回目	実技:アテンション(刺激) 犬との遊び-犬の待機 (座学含む)
9回目	実技:ハンドリング(お座り・伏せ) 各姿勢の維持と解除 犬との遊び-犬の待機
10回目	実技:リードをたるませた状態で犬と歩く ステップアップ 刺激付
11回目	実技:総復習(犬の観察・褒め方・リードの管理・ハンドリング・各指示の正確性)
12回目	講座:学習理論① トレーニングをするにあたっての犬の観察 実技:犬に分かりやすく伝える為のトレーニング① グループミーティング ※学内飼育犬は不要
13回目	講座:学習理論② 犬のトレーニング学-色んなトレーニング方法(バックチェイニング等) 実技:犬に分かりやすく伝える為のトレーニング② グループミーティング ※学内飼育犬は不要
14回目	前期評価及び振り返り
15回目	マナーチャレンジに向けてのガイダンス

準備学習
時間外学習

評価方法

授業参加度:30%
期末試験(筆記):70%

【使用教科書・教材・参考書】 □

プリント配布

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	ドッグトレーニング演習Ⅱ (Practice of Dog training Ⅱ)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	金川 英樹
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜日4時限

【授業の学習内容】

ドッグトレーナーとして、人と犬が互いに幸せに人間社会で暮らす為のしつけを学ぶ必要がある。この授業では、家庭犬トレーナー(インストラクター)として必要な基礎知識や犬を扱うスキル(リードや報酬の使い方、コマンドの出し方、犬に対する観察力等)を学ぶために、ドッグトレーナーから指導を受け学内飼育犬での実践を行う。
また、要所において振り返りや意見交換を行い、自分自身の課題を見つけるきっかけとする。

※実務経験者

犬のしつけ教室・幼稚園を運営する、JAHA認定の家庭犬しつけインストラクター

【到達目標】

一般の愛犬家からのニーズが高まっている犬に優しい正の強化を応用したトレーニングを実践できるようになる
トレーニングの実践だけでなく、犬の学習におけるプロセスを理解した上で行えるようになる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	実技:ヒールポジション ヒールウォーク(脚側歩行)
2回目	実技:お座り・待て (4D)
3回目	講座:学習理論③実技:犬の観察(動画) グループミーティング ※学内飼育犬は不要
4回目	実技:ヒールウォーク ケア(顔回り・体をさわる・抱っこ等)
5回目	実技:足元待機(伏せた状態で1分) 犬との遊び①
6回目	講座:学習理論④実技:犬の観察(動画) グループミーティング ※学内飼育犬は不要
7回目	マナーチャレンジテストの練習(テスト会場をセッティング)
8回目	実技:アテンション(注目)と解除 刺激に慣れる(周りの物や音・人の挨拶等)
9回目	実技:ハンドリング ケア(足ふき・ブラッシング・顔周りのケア・歯磨き等) 犬との遊び②
10回目	実技:呼び戻し
11回目	講座:学習理論⑤実技:グループミーティング ※学内飼育犬は不要
12回目	マナーチャレンジテストの練習(テスト会場をセッティング)
13回目	マナーチャレンジテストの練習(テスト会場をセッティング)
14回目	前期評価及び振り返り
15回目	講座:応用行動分析学基礎① 実技:グループミーティング ※学内飼育犬は不要

準備学習 時間外学習	
---------------	--

評価方法	授業参加度:30% 期末試験(実技):70%
------	---------------------------

【使用教科書・教材・参考書】 □

プリント配布

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	犬の行動学 (Study of Dog Behavior)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	本村 直子
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜日5時限

【授業の学習内容】

犬と関わる職業において、生物としての「犬」とはどのような動物かを考え、理解することが重要。この授業では、イヌ科の動物の特徴やコミュニケーション方法、基本的な行動等の視点から見た犬について学ぶ。

※実務経験者

コンパニオンアニマル・アドバイザーとして、飼い主とその愛犬の暮らしをより豊かなものにする為のカウンセリングやマナースクール、セミナーを開催する講師が授業を実施する。

【到達目標】

- 生物分類上の「犬」を理解し説明できる
- 犬の身体的特徴や感覚機能を理解し説明できる
- 犬のコミュニケーション方法を理解し説明できる
- 犬の生活における行動・心理を理解し説明できる

授業計画・内容

1回目	授業内容とすすめ方について説明、自己紹介
2回目	犬とは？(生物分類上の位置付けを理解する)
3回目	犬とは？(生物分類上の位置付けを理解する)
4回目	犬とは？(イエイヌとタイリクオオカミの関係性を理解する)
5回目	犬の生態(体の特徴を理解する”犬らしさ”を理解する)
6回目	犬の生態(体の特徴を理解する”犬らしさ”を理解する)
7回目	犬の生態(体の特徴を理解する”犬らしさ”を理解する)
8回目	犬の生態(「イエイヌ」としての特徴を理解する)
9回目	犬の生態(「イエイヌ」としての特徴を理解する)
10回目	犬の生態(感覚機能の特徴を理解する”犬らしさ”を理解する)
11回目	犬の生態(感覚機能の特徴を理解する”犬らしさ”を理解する)
12回目	犬の生態(感覚機能の特徴を理解する”犬らしさ”を理解する)
13回目	犬の生態(感覚機能の特徴を理解する”犬らしさ”を理解する)
14回目	前期評価及び振り返り
15回目	犬の生態(感覚機能の特徴を理解する”犬らしさ”を理解する)

準備学習
時間外学習

評価方法

期末評価(筆記): 80%
授業参加度: 20%

【使用教科書・教材・参考書】 □

この授業を通して”動物のおもしろさ”を伝えたい。もっともっと動物に興味を持って欲しい。

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	犬の行動学 (Study of Dog Behavior)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	本村 直子
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜日5時限

【授業の学習内容】

犬と関わる職業において、生物としての「犬」とはどのような動物かを考え、理解することが重要。この授業では、イヌ科の動物の特徴やコミュニケーション方法、基本的な行動等の視点から見た犬について学ぶ。

※実務経験者

コンパニオンアニマル・アドバイザーとして、飼い主とその愛犬の暮らしをより豊かなものにする為のカウンセリングやマナースクール、セミナーを開催する講師が授業を実施する。

【到達目標】

生物分類上の「犬」を理解し説明できる
 犬の身体的特徴や感覚機能を理解し説明できる
 犬のコミュニケーション方法を理解し説明できる
 犬の生活における行動・心理を理解し説明できる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	犬のコミュニケーション(動物のコミュニケーションの方法)
2回目	犬のコミュニケーション(動物の距離と空間における概念)
3回目	犬のコミュニケーション(犬のコミュニケーションの方法)
4回目	犬のコミュニケーション(犬の声)
5回目	犬のコミュニケーション(犬の表情とボディランゲージ)
6回目	犬のコミュニケーション(犬の表情とボディランゲージ)
7回目	犬のコミュニケーション(カーミング・シグナルとは?)
8回目	犬の行動学(社会的行動)
9回目	犬の行動学(犬の社会構造)
10回目	犬の行動学(犬の社会構造)
11回目	犬の行動学(犬の社会構造)
12回目	犬の行動学(採食行動)
13回目	犬の行動学(性行動)
14回目	犬の行動学(性行動)
15回目	犬の行動学(仔犬の発達行動)

準備学習
時間外学習

評価方法

期末評価(筆記): 80%
授業参加度: 20%

【使用教科書・教材・参考書】 □

この授業が「ソロモンの指環」になれば嬉しい

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	犬との暮らし方教室 (A Class of how to live with dog)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	神谷 三千代
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜日1・2時限

【授業の学習内容】

ドッグトレーナーとして、トレーニングを行うだけでなく飼い主と愛犬の関係性や飼育環境等から犬へのアプローチを考え、提案する(伝える)力が必要となる。この授業ではお客様の愛犬をお預かりし、学生主体でトレーニングの計画や改善方法、飼い主へのアドバイスを考え実践する事でドッグトレーナーとしての飼い主や犬との接し方を学ぶ。トレーニングや飼い主対応の学生指導はドッグトレーナーが行う。

※実務経験者

犬の学校SMILEDOG代表。家庭犬訓練士として犬の育て方のアドバイスを行っている。

【到達目標】

犬をよく観察し、犬の個性や状況に合わせた適切な対応ができるようになる
 効率を考えたトレーニングの計画を立て、飼い主へ上手に伝える事ができるようになる
 担当の犬の問題行動改善に繋がるトレーニングや、生活環境へのアドバイスができるようになる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	自己紹介/学校犬観察/クリックゲーム
2回目	ボディランゲージ/カーミングシグナル「犬との暮らし方教室」の注意点、やる事
3回目	①<飼い主様参加日>担当犬初対面、飼い主様との面談、聞き取り
4回目	②担当犬トレーニング開始
5回目	③外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
6回目	④外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
7回目	⑤<飼い主様参加日>外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
8回目	⑥外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
9回目	⑦外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
10回目	⑧外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
11回目	⑨外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
12回目	⑩<飼い主様参加日>外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
13回目	⑪<飼い主様参加日>外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
14回目	⑫外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
15回目	⑬<飼い主様参加日>外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論

準備学習 時間外学習	
---------------	--

評価方法	レポート評価:70% 授業参加度:30%
------	-------------------------

【使用教科書・教材・参考書】 □

クリックカー、オヤツ、フード、オモチャ(ボール、紐 etc...)
 知育オモチャ、ポーチ、ロングリード、長めの紐3~5m

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	犬との暮らし方教室 (A Class of how to live with dog)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	神谷 三千代
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜日1・2時限

【授業の学習内容】

ドッグトレーナーとして、トレーニングを行うだけでなく飼い主と愛犬の関係性や飼育環境等から犬へのアプローチを考え、提案する(伝える)力が必要となる。この授業ではお客様の愛犬をお預かりし、学生主体でトレーニングの計画や改善方法、飼い主へのアドバイスを考え実践する事でドッグトレーナーとしての飼い主や犬との接し方を学ぶ。トレーニングや飼い主対応の学生指導はドッグトレーナーが行う。

※実務経験者

犬の学校SMILEDOG代表。家庭犬訓練士として犬の育て方のアドバイスを行っている。

【到達目標】

犬をよく観察し、犬の個性や状況に合わせた適切な対応ができるようになる
 効率を考えたトレーニングの計画を立て、飼い主へ上手に伝える事ができるようになる
 担当の犬の問題行動改善に繋がるトレーニングや、生活環境へのアドバイスができるようになる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	<飼い主様参加日>発表会に向けての計画立て
2回目	外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
3回目	外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
4回目	外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
5回目	<飼い主様参加日>外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
6回目	外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
7回目	外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
8回目	外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
9回目	外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
10回目	外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
11回目	<飼い主様参加日>発表会本番
12回目	<飼い主様参加日>外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
13回目	外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
14回目	外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
15回目	<飼い主様参加日>最終日の為、飼い主様とお別れ会

準備学習 時間外学習	
---------------	--

評価方法	レポート評価:70% 授業参加度:30%
------	-------------------------

【使用教科書・教材・参考書】 □

クリッカー、オヤツ、フード、オモチャ(ボール、紐 etc...)
 知育オモチャ、ポーチ、ロングリード、長めの紐3~5m

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	ドッグスポーツ演習 (Practice of Basic Dog sport)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	中尾 直譜
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜日3時限

【授業の学習内容】

犬とのコミュニケーションや関係性を構築する為に、犬も人も楽しんで取り組めるドッグスポーツは有効である。この授業ではドッグスポーツの一種「アジリティ」の基本ルールから使用機材、コースの走り方等を学び、その楽しさを知る。

※実務経験者

しつけ及びアジリティ教室を運営し、またアジリティ世界大会への出場経験を持つドッグトレーナーが授業を実施する。

【到達目標】

アジリティの概要やルール、楽しさを理解する
 アジリティに使用する各種機材を正しく設置・使用できるようになる
 競技とドッグトレーニングとの関連性を理解して取り組めるようになる
 コースの走り方(障害物の乗り越え方)と各ポイントや注意点を理解して実践できるようになる
 以上をアジリティ初心者に正しく伝えられるようになる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	授業オリエンテーション
2回目	犬のトレーニング(しつけ1)(アジリティルール)
3回目	犬のトレーニング(しつけ2)(アジリティルール)
4回目	犬のトレーニング(しつけ3)(アジリティルール)
5回目	ハードルを使用したトレーニング①
6回目	ハードルを使用したトレーニング②
7回目	ハードルを使用したトレーニング③
8回目	ハードルを使用したトレーニング④
9回目	ハードルを使用したトレーニング⑤
10回目	ハードルを使用したトレーニング⑥
11回目	アジリティ初級①
12回目	アジリティ初級②
13回目	アジリティ初級③
14回目	アジリティ初級④
15回目	アジリティ初級⑤

準備学習
時間外学習

評価方法

実技評価:100%

【使用教科書・教材・参考書】 □

アジリティ機材

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	ドッグスポーツ演習 (Practice of Basic Dog sport)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	中尾 直譜
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜日3時限

【授業の学習内容】

犬とのコミュニケーションや関係性を構築する為に、犬も人も楽しんで取り組めるドッグスポーツは有効である。この授業ではドッグスポーツの一種「アジリティ」の基本ルールから使用機材、コースの走り方等を学び、その楽しさを知る。

※実務経験者

しつけ及びアジリティ教室を運営し、またアジリティ世界大会への出場経験を持つドッグトレーナーが授業を実施する。

【到達目標】

アジリティの概要やルール、楽しさを理解する
 アジリティに使用する各種機材を正しく設置・使用できるようになる
 競技とドッグトレーニングとの関連性を理解して取り組めるようになる
 コースの走り方(障害物の乗り越え方)と各ポイントや注意点を理解して実践できるようになる
 以上をアジリティ初心者に正しく伝えられるようになる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	オビディエンス中級/アジリティ中級
2回目	オビディエンス中級/アジリティ中級
3回目	オビディエンス中級/アジリティ中級
4回目	オビディエンス中級/アジリティ中級
5回目	オビディエンス中級/アジリティ中級
6回目	オビディエンス中級/アジリティ中級
7回目	オビディエンス中級及びアジリティ中級のクラス内コンペティション
8回目	オビディエンス上級/アジリティ上級
9回目	オビディエンス上級/アジリティ上級
10回目	オビディエンス上級/アジリティ上級
11回目	オビディエンス上級/アジリティ上級
12回目	オビディエンス上級/アジリティ上級
13回目	オビディエンス上級/アジリティ上級
14回目	オビディエンス上級及びアジリティ上級のクラス内コンペティション
15回目	オビディエンス上級及びアジリティ上級のクラス内コンペティション

準備学習
時間外学習

評価方法

実技評価:100%

【使用教科書・教材・参考書】 □

アジリティ機材

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	アニマルベーシック (Basic Animal Study)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	伊藤 悠介
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜日2時限

【授業の学習内容】

動物業界に身を置く上で、分野に関わらず基礎的な生物知識を持つ事が大切である。この科目では、様々な動物、環境と関わる中で重要となる公衆衛生や、注意すべき感染症、生物が持つ環境や病気への免疫等について学ぶ。

※実務経験者

九州大学大学院にてウイルス感染症の研究を行っている講師が、授業を実施する。

【到達目標】

- ①生物多様性について理解し、説明できる
- ②DNA・タンパク質について理解し、説明できる
- ③生物の進化・分類について理解し、説明できる
- ④病気・免疫・公衆衛生について理解し、説明できる
- ⑤飼料・五大栄養素について理解し、説明できる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	オリエンテーション
2回目	生物多様性・DNA・遺伝子・分類 1回目
3回目	生物多様性・DNA・遺伝子・分類 2回目
4回目	生物多様性・DNA・遺伝子・分類 3回目
5回目	病気・公衆衛生・免疫 第1回目
6回目	病気・公衆衛生・免疫 第2回目
7回目	病気・公衆衛生・免疫 第3回目
8回目	中間評価及び振り返り
9回目	代謝・血液 第1回目
10回目	代謝・血液 第2回目
11回目	代謝・血液 第3回目
12回目	運動・分泌・五大栄養素 第1回
13回目	運動・分泌・五大栄養素 第2回
14回目	運動・分泌・五大栄養素 第3回
15回目	前期評価及び振り返り

準備学習
時間外学習

評価方法

レポート提出・評価: 50%
授業参加度: 50%

【使用教科書・教材・参考書】 □

ECO業界で役立つ基礎生物(株式会社滋慶出版)

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	動物の体のしくみ (Anatomy and Physiology of Animals)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	高山清次
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜日4時限

【授業の学習内容】

犬を中心とした基本的な動物の体の構造・骨格や生理的な知識について、理解することを目的とする。

※実務経験者

麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了/獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 学校長を務める。

【到達目標】

犬の体を構成する各臓器の位置、構造、機能をそれぞれ理解することにより、動物の飼養管理や疾病予防に役立つことを目標としている。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	授業オリエンテーション/P80～81 犬の骨格の構造とそれぞれの働き
2回目	P82～85(骨格系) 骨の構造と生理/他の動物との骨格の違い
3回目	P8～11(消化器系) 消化器系の構成/歯の構造と歯式/口腔内の名称
4回目	P12～15(消化器系) 口蓋・舌・咽頭・食道の構造と働き/病気と予防
5回目	P16～19(消化器系) 胃の構造と働き/病気と予防
6回目	P20～25(消化器系) 小腸・大腸・肝臓の構造と働き/病気と予防
7回目	中間評価
8回目	P30～33(泌尿器系) 腎臓の構造と働き/病気と予防
9回目	P34～35(泌尿器系) 尿管・膀胱・尿道の構造と働き/病気と予防
10回目	P56(循環器系) 心臓の構造と働き/血液の循環/病気と予防
11回目	P36～37(呼吸器系) 鼻腔・咽頭・喉頭の構造と働き
12回目	P40～43(呼吸器系) 肺の構造と働き/病気と予防
13回目	P44～51(生殖器系) 雄性生殖器・雌性生殖器の構造と働き/病気と予防①
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	P44～51(生殖器系) 雄性生殖器・雌性生殖器の構造と働き/病気と予防②

準備学習
時間外学習

評価方法

定期試験:80% 授業態度と参加度:20%

【使用教科書・教材・参考書】 □

ECO専門基礎科目テキスト「動物の体のしくみ」

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	動物の健康管理 (Healthy Management of Animals)	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	石飛 綾
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜日4時限

【授業の学習内容】

この授業では、動物を病気にさせないための手段である予防(ワクチン・フィラリア症・寄生虫・不妊去勢手術)について学びます。これらは、動物病院だけで行われるような印象があるかもしれませんが、トレーニングを行う場所やペットショップ、ペットホテルなどでは、多くの犬が出入りしますし、病気に対して抵抗力がない子犬がいることもあります。犬同士で伝染するものの中には、目で確認できない大きさのものもあります。危険から動物たちを守るためには、予防のしきみをしっかりと理解し、動物や環境に対して対策を行えることが重要になります。

※実務経験者

神奈川県内の動物病院にて3年間、犬、猫、エキゾチックアニマルの診療、飼い主の方への健康管理のアドバイスなどを経験する。その後4年間「到津の森公園」にて、動物園動物の診療や健康管理など獣医師の業務だけでなく動物園の企画、広報業務にも携わった経験のある講師が授業を行う。

【到達目標】

ワクチン・フィラリア症・寄生虫・不妊去勢手術について、以下の①～③を目標とする。

- ①予防の重要性や、予防のしきみ、具体的な予防方法について、理解できる
- ②目的①の内容について、人に説明をすることができる
- ③現場でどのような予防対策を行えばよいかを考え、実行することができる。飼い主の方に予防について説明やアドバイスができる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	授業の目的、進め方、ワクチン接種について①
2回目	ワクチン接種について②
3回目	ワクチン接種について③
4回目	ワクチン接種について④ フィラリア症について①
5回目	フィラリア症について②
6回目	フィラリア症について③
7回目	中間評価試験
8回目	中間評価試験の返却と解説
9回目	外部寄生虫について①
10回目	外部寄生虫について②
11回目	外部寄生虫について③ 内部寄生虫について①
12回目	内部寄生虫について②
13回目	不妊去勢手術のメリット・デメリットについて
14回目	前期評価及び振り返り
15回目	応急手当(熱中症)について
準備学習 時間外学習	授業内容のほとんどが、初めて学習する内容となるため、理解できるまで時間をかけて説明する。初めて学習する内容は、特に授業中での理解を確実なものにして、もう一度整理する作業、復習が重要になる。授業の板書をノートに書き、さらに授業中のお話の内容をノートにメモし、授業後にノートを見直して内容を確認しておく、目標を達成しやすくなる。授業の冒頭で前回の授業のまとめを、授業の最後で当日の授業のまとめを簡単に話すので、内容の整理に使うと効果的。専門用語に関しては、その都度解説を行う。
評価方法	●中間評価試験40% ●期末評価試験40% ●出席及び授業態度20%の割合で評価を行う。

【使用教科書・教材・参考書】 □

教科書:小方 宗次 編 カラーアトラス 最新 くわしい犬の病気大図典 誠文堂新光社 参考書:滋慶教育科学研究所 イラストで見る動物の飼養管理

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	アニマルトレーニング (Animals Training)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	山本 祐紀
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 金曜日2時限

【授業の学習内容】

ドッグトレーニングに関わるにあたって、トレーニングの必要性や犬の学習原理を知る・考える事で犬への接し方、伝え方にも変化が起きる。この授業では、ドッグトレーナーより、犬の行動心理や学習の原理・原則を学ぶ。

※実務経験者

飼い主向けに犬のしつけ相談やデイケア等のサービスを提供する施設を運営する傍ら、セミナー講師も務めるドッグトレーナーが授業を実施する。

【到達目標】

犬の心理を理解し、犬が人間に求めているものを提供できる人材になる。
犬に対して自分の影響力を知り、犬に適した身の振り方(接し方)を考えられるようになる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	これからの授業で意識すること。飼い主に必要とする知識とは。
2回目	犬社会のルールから見る犬との初対面の接し方。プロと飼い主の違いを知る。(実技)
3回目	なぜトレーニングが必要なのか?
4回目	なぜトレーニングが必要なのか?
5回目	なぜトレーニングを科学的に考えるのか?
6回目	犬を育てる為に、トレーナーが身につけること。(実技)
7回目	歩行のトレーニングを通して犬に教える人間のこと。(実技)
8回目	歩行のトレーニングを通して犬に教える人間のこと。(実技)
9回目	歩行のトレーニングを通して犬に教える人間のこと。(実技)
10回目	おすわりトレーニングを用いて、犬の誉め方・誉める時に必要な感情の伝え方を知る。(実技)
11回目	おすわりトレーニングを用いて、犬の誉め方・誉める時に必要な感情の伝え方を知る。(実技)
12回目	犬の心を安定させる方法を知る。
13回目	犬の心を安定させる方法を知る。前期まとめ【テスト対策】
14回目	前期評価及び振り返り①
15回目	振り返り②

準備学習
時間外学習

評価方法

筆記試験:80%
授業参加度:20%

【使用教科書・教材・参考書】 □

講師作成資料

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	アニマルトレーニング (Animals Training)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	山本 祐紀
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜日2時限

【授業の学習内容】

ドッグトレーニングに関わるにあたって、トレーニングの必要性や犬の学習原理を知る・考える事で犬への接し方、伝え方にも変化が起きる。この授業では、ドッグトレーナーより、犬の行動心理や学習の原理・原則を学ぶ。

※実務経験者

飼い主向けに犬のしつけ相談やデイケア等のサービスを提供する施設を運営する傍ら、セミナー講師も務めるドッグトレーナーが授業を実施する。

【到達目標】

犬の心理を理解し、犬が人間に求めているものを提供できる人材になる。
犬に対して自分の影響力を知り、犬に適した身の振り方(接し方)を考えられるようになる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	古典的条件付けの原理原則を知る
2回目	古典的条件付けの原理原則を知る
3回目	古典的条件付けを用いてトレーニングへの活用法
4回目	馴化の原理原則を知る
5回目	馴化の原理原則を知る
6回目	系統的脱感作法を知る
7回目	系統的脱感作法を知る
8回目	拮抗条件付けを知る
9回目	拮抗条件付けを知る
10回目	トレーニングで起こり得る弊害を知る。
11回目	トレーニングで起こり得る弊害を知る。
12回目	トレーニング方法の選び方を知る。
13回目	攻撃性行動を知る ※視覚資料使用(DVD鑑賞)
14回目	後期評価及び振り返り①
15回目	振り返り②

準備学習
時間外学習

評価方法

筆記試験:80%
授業参加度:20%

【使用教科書・教材・参考書】 □

講師作成資料

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	次世代のための環境教育 (Environmental Study for Next Generation)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	大橋 光雄
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 火曜日3時限

【授業の学習内容】

環境問題の概略を理解し、ジレンマや事例研究を参考にトリレンマ懸案をどのようにコンセンサス(consensus)していくかワークショップ(workshop)を用い、読み解く力をつける。

※実務経験者

1977年九州産業大学卒業後、アメリカの「THE NATIONAL OUTDOOR LEADERSHIP SCHOOL」へ留学経験を持つ。キャンプディレクター1級とプロジェクトワイルド上級指導者資格を有し、多くのキャンパイベントや執筆、普及活動に携わる。2004～2017年には福岡県キャンプ協会会長も務めた講師が授業を行う。

【到達目標】

環境自分たちの業界のことで環境問題の概略を知り、環境教育の必要性と目的を理解する。また、自然環境の一員としての人間の位置づけを環境倫理の面から掘り下げて考察する。その上で主に9の категорияで環境教育を紐解き多様な考えや社会経済との結びつきを考えることができるようになる。

授業計画・内容

1回目	ガイダンス・環境教育の必要性と目的
2回目	世界の環境問題1(地球温暖化)メカニク
3回目	世界の環境問題2(生物多様性とは)仕組みと身近な事例
4回目	世界の環境問題3
5回目	世界の環境問題4(ゴミ問題～食糧問題)
6回目	環境問題の啓発者の探る1 Severn Cullis-Suzuki リオの伝説のスピーチを読み解く
7回目	環境問題の啓発者の探る2 世界の環境教育の流れ「ベオグラート憲章」
8回目	日本の環境教育の流れ「関心・理解・行動」日本型の検証
9回目	環境教育における環境倫理 酸性雨・海洋汚染
10回目	環境教育における環境倫理 有害廃棄物の越境移動
11回目	環境教育における環境倫理 野生生物種の減少1
12回目	環境教育における環境倫理 野生生物種の減少2
13回目	環境教育における環境倫理 ジレンマからトリレンマ 砂漠化
14回目	理解動の確認 Q&A 環境クイズ
15回目	前期振り返り

準備学習 時間外学習	
---------------	--

評価方法	定期試験50%、成果発表25%、受講態度25%とする
------	----------------------------

【使用教科書・教材・参考書】 □

適宜 資料を配布する。
アクティブラーニングESD(Education for Sustainable Development) SDGs
(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)等を用いる。

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	アニマルヒストリー (History of Animal and Human)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	本村 直子
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	曜日・時限

【授業の学習内容】

人と動物の関わりには民族や宗教、歴史的な背景などが大きく関わっている。この授業ではコンパニオンアニマルとしての動物のルーツをコンパニオンアニマル・アドバイザーが解説する。

※実務経験者

コンパニオンアニマル・アドバイザーとして、飼い主とその愛犬の暮らしをより豊かなものにする為のカウンセリングやマナースクール、セミナーを開催する講師が授業を実施する。

【到達目標】

人と動物との関わり方の歴史を理解し、説明できる
日本人・西洋人と動物との関わり方や、その違いを説明できる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	授業内容と進め方及び自己紹介
2回目	人と動物との関わり(飼育動物と野生動物)
3回目	人と動物との関わり(家畜との関わり-定義)
4回目	人と動物との関わり(家畜との関わり-分類)
5回目	人と動物との関わり(家畜との関わり-分類)
6回目	日本人と動物との関わり(日本人と家畜の関わり)
7回目	日本人と動物との関わり(宗教の影響)
8回目	日本人と動物との関わり(宗教の影響)
9回目	日本人と動物との関わり(日本の動物観の歴史)
10回目	日本人と動物との関わり(明治以降の動物観)
11回目	西洋人と動物との関わり(「キリスト教」の影響)
12回目	西洋人と動物との関わり(西洋の動物虐待)
13回目	西洋人と動物との関わり(虐待から保護へ)
14回目	評価及び振り返り
15回目	動物の福祉(5つの自由)

準備学習
時間外学習

評価方法

期末評価(筆記): 80%
授業参加度: 20%

【使用教科書・教材・参考書】 □

動物年表で見るアニマルヒストリー(滋慶出版)

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	ドッグトレーニング演習Ⅲ (Practice of Dog training Ⅲ)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	左藤 珠代
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 木曜2限目

【授業の学習内容】

犬の訓練士として長く経験を積み重ねる過程では、犬の訓練試験や競技会に対応する技術を身に付ける必要がある。この授業では主に家庭犬訓練試験初等科及び中等科の訓練課目における犬の指導手としての動き方や審査について学び、学内飼育犬と共に実践する。

※実務経験者

社団法人ジャパンケネルクラブ(JKC)公認訓練士。犬の飼い主向けにドッグランや犬のしつけ・アジリティ教室等を運営するドッグトレーナーが授業講師として担当する。

【到達目標】

JKCにおける家庭犬訓練試験初等科・中等科(CDⅠ・CDⅡ)科目に関して、審査される側としての実施要項を意識した動作ができるようになる。1年次に学んだ指導手としての姿勢やリードの使い方、指示のタイミング等を反復して上達させる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	犬と指導手のペア決め、1年間の目標決め
2回目	各犬のテーマ(訓練内容絞り込み)
3回目	立止の教え方(フォームの徹底、姿勢のキープ)
4回目	訓練用語(JKC・家庭犬訓練試験中等科説明)、立止(同上の反復)
5回目	脚側行進(コーナーのコツ)
6回目	脚側行進(コーナーのコツ)
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	招呼(ロングリードの使い方)
9回目	招呼(出発から脚側停座まで)
10回目	招呼(フリーからの招呼の教え方)
11回目	脚側行進、脚側停座、コーナーの処理
12回目	脚側行進、脚側停座、コーナーの処理
13回目	前期評価及び振り返り
14回目	コマンド、リード、犬の誘導(実技)復習
15回目	前期総復習

準備学習
時間外学習

評価方法

中間評価(筆記):20%
授業参加度:20%
期末評価(実技):60%

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	ドッグトレーニング演習Ⅲ (Practice of Dog training Ⅲ)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	左藤 珠代
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜日2時限

【授業の学習内容】

犬の訓練士として長く経験を積み重ねる過程では、犬の訓練試験や競技会に対応する技術を身に付ける必要がある。この授業では主に家庭犬訓練試験初等科及び中等科の訓練課目における犬の指導手としての動き方や審査について学び、学内飼育犬と共に実践する。

※実務経験者

社団法人ジャパンケネルクラブ(JKC)公認訓練士。犬の飼い主向けにドッグランや犬のしつけ・アジリティ教室等を運営するドッグトレーナーが授業講師として担当する。

【到達目標】

JKCにおける家庭犬訓練試験初等科・中等科(CDⅠ・CDⅡ)科目に関して、審査される側としての実施要項を意識した動作ができるようになる。1年次に学んだ指導手としての姿勢やリードの使い方、指示のタイミング等を反復して上達させる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	「立止」確実性アップトレーニング
2回目	ノーリードでの「停座」「伏臥」「立止」
3回目	ノーリードに向けた脚側行進、指導手の姿勢練習
4回目	ノーリードに向けた脚側行進、指導手の姿勢練習
5回目	脚側停座の位置のズレの原因と修正
6回目	何故、犬は1回目のコマンドで実行しないと、出来ないのか？
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	ノーリードでの「招呼」
9回目	ノーリードでの「招呼」
10回目	紐無し脚側行進に向けた練習
11回目	紐無し脚側行進に向けた練習
12回目	紐無し脚側行進に向けた練習
13回目	後期評価及び振り返り①
14回目	振り返り②
15回目	総復習

準備学習
時間外学習

評価方法

中間評価(筆記):20%
授業参加度:20%
期末評価(実技):60%

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	ドッグトレーニング演習Ⅳ (Practice of Dog training Ⅳ)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	金川 英樹
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜日5時限

【授業の学習内容】

ドッグトレーナー(インストラクター)として飼い主からの信頼を得るためには、トレーニングに関わる試験への取り組みやセミナー等への参加による広い視野を持つことが重要である。この授業では実際に行われている検定試験の項目に沿ったトレーニングやケア、ハンドラーとしての身のこなしをドッグトレーナーから学び、学内飼育犬と共に実践する。
また、要所において振り返りや意見交換を行い、自分自身の課題を見つけるきっかけとする。

※実務経験者

犬のしつけ教室・幼稚園を運営する、JAHA認定の家庭犬しつけインストラクター

【到達目標】

マナーハンドラーテストの項目を理解し、自身の課題を発見・改善する事で合格相当の力を身に付ける

犬の学習のプロセスへの理解を深め、それを応用したクリックートレーニングを実践できるようになる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	講座: マナーハンドラーテスト 受験ガイダンス マニュアル ルール
2回目	実技: マナーハンドラーテストの内容を実施 体験してできない所をチェック
3回目	座学: 前回の出来ていない所を改善していくために必要な知識とスキル
4回目	実技: アテンション(注目) ヒールポジション 維持 解除
5回目	実技: ヒールウォーク 犬との遊び リラックス(足元待機)
6回目	実技: ヒールウォーク(ステップアップ) 刺激(4D)に慣れる
7回目	座学: 学習理論(二次性強化子・クリッカー) ※学内飼育犬は不要
8回目	筆記テスト(前半の復習・クリックートレーニング)
9回目	実技: クリッカーを使ったトレーニング(ターゲティング)
10回目	実技: お座り(伏せ)待て 合図化 ケア
11回目	実技: 呼び戻し リラックス(足元待機)
12回目	座学: 前期で出来ている事と出来ていない所の振り返りと改善
13回目	実技: テスト前の復習
14回目	マナーハンドラーテスト 模擬(どこまで出来ているかのチェック)
15回目	座学: 前回の出来ていない所の改善・改善する為に必要な知識とスキル

準備学習
時間外学習

評価方法

筆記試験: 70%
授業参加度: 30%

【使用教科書・教材・参考書】 □

プリント配布

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	ドッグトレーニング演習Ⅳ (Practice of Dog training Ⅳ)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	金川 英樹
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜日5時限

【授業の学習内容】

ドッグトレーナー(インストラクター)として飼い主からの信頼を得るためには、トレーニングに関わる試験への取り組みやセミナー等への参加による広い視野を持つことが重要である。この授業では実際に行われている検定試験の項目に沿ったトレーニングやケア、ハンドラーとしての身のこなしをドッグトレーナーから学び、学内飼育犬と共に実践する。
また、要所において振り返りや意見交換を行い、自分自身の課題を見つけるきっかけとする。

※実務経験者

犬のしつけ教室・幼稚園を運営する、JAHA認定の家庭犬しつけインストラクター

【到達目標】

マナーハンドラーテストの項目を理解し、自身の課題を発見・改善する事で合格相当の力を身に付ける

犬の学習のプロセスへの理解を深め、それを応用したクリックートレーニングを実践できるようになる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	実技: step①ケア(足拭き・ブラッシング) クレートトレーニング 犬との遊び
2回目	実技: step②ケア(足拭き・ブラッシング) 犬とのすれ違い 犬との遊び
3回目	座学: マナーハンドラーテストの準備 学習理論③
4回目	実技: step①クリックートレーニング トリック 足元待機
5回目	実技: step②クリックートレーニング トリック 足元待機
6回目	実技: step③クリックートレーニング トリック 足元待機
7回目	実技: これまでに学んだ事のチェックテスト ケア クリッカー トリック 足元待機
8回目	実技: マナーハンドラーテストの練習(実際のテスト会場のセッティングにて)
9回目	実技: マナーハンドラーテストの練習(実際のテスト会場のセッティングにて)
10回目	実技: マナーハンドラーテストの練習(実際のテスト会場のセッティングにて)
11回目	座学: 応用行動分析学
12回目	実技: マナーハンドラーテストの練習(実際のテスト会場のセッティングにて)
13回目	実技: マナーハンドラーテストの練習(実際のテスト会場のセッティングにて)
14回目	マナーハンドラーテスト
15回目	振り返り

準備学習
時間外学習

評価方法

実技試験: 70%
授業参加度: 30%

【使用教科書・教材・参考書】 □

プリント配布

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	警察犬トレーニング (Theory of Police Dog)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	撰田 浩三
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜日3時限

【授業の学習内容】

使役犬(警察犬)の育成において、訓練課目の実践だけでなく犬との関係性やモチベーションを引き出すコミュニケーションも必要である。この授業では、日本警察犬協会の公認訓練士から犬へのアプローチ及び警察犬訓練課目を学び、学内飼育犬と共に実践する。

※実務経験者

一般社団法人ジャパンケネルクラブ及び公益社団法人日本警察犬協会公認訓練士。警察犬・家庭犬訓練所での訓練・飼育管理に携わり、各種競技会や展覧会での入賞経験を持つ講師が授業を担当する。

【到達目標】

- ・犬との関係性を築き、訓練へのモチベーションを引き出せる
- ・公認の警察犬訓練士になる過程を理解し、説明できる
- ・訓練競技会での訓練課目を理解し、説明できる
- ・競技科目の内、「服従訓練」「臭気選別」を実践できる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	自己紹介/見習い訓練士の仕事説明
2回目	警察犬課目ビデオ鑑賞及び訓練課目の説明
3回目	担当犬と親和を取る(オモチャでの遊び、持来の練習)
4回目	持来欲を使った停座の練習
5回目	持来欲を使った停座、フセの練習
6回目	持来欲を使った停座、フセ、立止の練習
7回目	持来欲を使った脚側行進の練習
8回目	中間評価及び振り返り
9回目	服従の練習、選別布での遊び
10回目	服従の練習、選別布での持来練習
11回目	服従の練習、選別台を使った持来練習
12回目	服従の練習、誘惑臭を入れての選別(布1枚)
13回目	服従の練習、誘惑臭を入れての選別(布2枚)
14回目	前期評価及び振り返り
15回目	服従の練習、誘惑臭を入れての選別(布3枚)

準備学習
時間外学習

評価方法

中間評価(筆記):30%
期末評価(実技):70%

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	警察犬トレーニング (Theory of Police Dog)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	撰田 浩三
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜日3時限

【授業の学習内容】

使役犬(警察犬)の育成において、訓練課目の実践だけでなく犬との関係性やモチベーションを引き出すコミュニケーションも必要である。この授業では、日本警察犬協会の公認訓練士から犬へのアプローチ及び警察犬訓練課目を学び、学内飼育犬と共に実践する。

※実務経験者

一般社団法人ジャパンケネルクラブ及び公益社団法人日本警察犬協会公認訓練士。警察犬・家庭犬訓練所での訓練・飼育管理に携わり、各種競技会や展覧会での入賞経験を持つ講師が授業を担当する。

【到達目標】

- ・犬との関係性を築き、訓練へのモチベーションを引き出せる
- ・公認の警察犬訓練士になる過程を理解し、説明できる
- ・訓練競技会での訓練課目を理解し、説明できる
- ・競技科目の内、「服従訓練」「臭気選別」を実践できる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	服従の練習、誘惑臭を入れての選別(布4枚)
2回目	服従の練習、選別の練習
3回目	服従の練習、選別の練習
4回目	服従の練習、選別の練習
5回目	選別の予習
6回目	選別の予習
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	各自の課題点を発見及び練習/自臭を選別させていく
9回目	各自の課題点を発見及び練習/自臭を選別させていく
10回目	各自の課題点を発見及び練習/自臭を選別させていく
11回目	各自の課題点を発見及び練習/自臭を選別させていく
12回目	各自の課題点を発見及び練習/自臭を選別させていく
13回目	各自の課題点を発見及び練習/自臭を選別させていく
14回目	後期評価及び振り返り
15回目	年間の振り返り

準備学習
時間外学習

評価方法

中間評価(筆記):50%
期末評価(実技):50%

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	介助犬トレーニング (Theory of Assistance Dog)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	桜井 恭子
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜日1時限

【授業の学習内容】

介助犬及びその他の補助犬の育成に携わる上で、身体の不自由な方が社会生活を送る上での介助犬の役割や必要性を理解した上でトレーニングに取り組むことが必要とされる。この授業では補助犬育成に携わる訓練士から補助犬の歴史や現代における必要性、他の使役犬との訓練の違いを学び、実践する。

※実務経験者

NPO法人九州補助犬協会の理事を務める。補助犬育成だけでなく、施設でのセラピー犬活動や補助犬のPR活動など様々な活動に携わる。

【到達目標】

- ・補助犬の歴史や法律、国内での普及に関して理解し、説明できる
- ・介助犬としての適性を理解し、犬を観察できるようになる
- ・ユーザーとの合同訓練やその後の生活を見据えた、家庭犬やその他使役犬とのトレーニングの違いを理解し、実践及び配慮できるようになる

授業計画・内容

1回目	自己紹介 補助犬について
2回目	補助犬に使用される犬種
3回目	補助犬の歴史
4回目	補助犬法
5回目	補助犬の受入
6回目	補助犬の育成 繁殖
7回目	中間評価及び振り返り 介助犬DVD鑑賞
8回目	補助犬の育成 仔犬の飼育
9回目	犬の訓練法
10回目	補助犬の適正テスト
11回目	介助犬の育成 車椅子の操作
12回目	介助犬の育成 日常生活のしつけ
13回目	介助犬の育成 服従訓練
14回目	前期評価及び振り返り
15回目	介助犬の育成 介助動作

準備学習
時間外学習

評価方法

筆記試験：60%
実技試験：20%
レポート：20%

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	介助犬トレーニング (Theory of Assistance Dog)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	桜井 恭子
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜日1時限

【授業の学習内容】

介助犬及びその他の補助犬の育成に携わる上で、身体の不自由な方が社会生活を送る上での介助犬の役割や必要性を理解した上でトレーニングに取り組むことが必要とされる。この授業では補助犬育成に携わる訓練士から補助犬の歴史や現代における必要性、他の使役犬との訓練の違いを学び、実践する。

※実務経験者

NPO法人九州補助犬協会の理事を務める。補助犬育成だけでなく、施設でのセラピー犬活動や補助犬のPR活動など様々な活動に携わる。

【到達目標】

- ・補助犬の歴史や法律、国内での普及に関して理解し、説明できる
- ・介助犬としての適性を理解し、犬を観察できるようになる
- ・ユーザーとの合同訓練やその後の生活を見据えた、家庭犬やその他使役犬とのトレーニングの違いを理解し、実践及び配慮できるようになる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	介助犬の合同訓練
2回目	盲導犬の育成 服従訓練
3回目	盲導犬の育成 服従訓練
4回目	盲導犬の育成 誘導訓練
5回目	盲導犬の育成 誘導訓練
6回目	盲導犬の育成 誘導訓練
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	盲導犬アイマスクテスト
9回目	聴導犬の育成
10回目	セラピー犬活動
11回目	フォローアップについて
12回目	補助犬のリタイア
13回目	セラピー犬活動
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	障害者と補助犬 小冊子作成

準備学習
時間外学習

評価方法

筆記試験：60%
実技試験：20%
レポート：20%

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	セラピー犬トレーニング (Therapy Dog Training)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	桜井 恭子
	専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 水曜日3時限

【授業の学習内容】

高齢化が進む現代において、セラピー犬が人にもたらす影響は注目されている。この授業ではアニマルセラピーを通じて人にもたらされる心理的、社会的な影響を理解し、セラピードッグの育成や訓練の手法を補助犬訓練士でありセラピー犬活動も行う講師から学び、実践する。

※実務経験者

NPO法人九州補助犬協会の理事を務める。施設を訪問してのでのセラピー犬活動にも精力的に取り組む講師が授業を実施する。

【到達目標】

- ・アニマルセラピーのもたらす効果を理解し、以下の実践において考慮できるようになる
- ・セラピードッグのハンドラーとして、適切な犬への指示や行動への対処ができるようになる
- ・高齢者に向けたふれあいやレクリエーション現場で体感する(コミュニケーションの実践)

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	自己紹介 セラピー犬トレーニング講義内容、活動全般 自己紹介
2回目	人と犬の歴史
3回目	犬の病気とワクチネーション
4回目	人獣共通伝染病
5回目	ヒューマンアニマルボンド
6回目	セラピー犬活動の種類
7回目	中間評価及び振り返り DVD鑑賞
8回目	施設の種類と利用者の特徴
9回目	対象者とのコミュニケーション
10回目	トレーニングとは
11回目	犬とのコミュニケーション
12回目	トレーニングとは
13回目	服従訓練
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	セラピー犬活動見学

準備学習
時間外学習

評価方法

筆記試験：60%
実技試験：20%
レポート：20%

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	セラピー犬トレーニング (Therapy Dog Training)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	桜井 恭子
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜日3時限

【授業の学習内容】

高齢化が進む現代において、セラピー犬が人にもたらす影響は注目されている。この授業ではアニマルセラピーを通じて人にもたらされる心理的、社会的な影響を理解し、セラピードッグの育成や訓練の手法を補助犬訓練士でありセラピー犬活動も行う講師から学び、実践する。

※実務経験者

NPO法人九州補助犬協会の理事を務める。施設を訪問してのでのセラピー犬活動にも精力的に取り組む講師が授業を実施する。

【到達目標】

- ・アニマルセラピーのもたらす効果を理解し、以下の実践において考慮できるようになる
- ・セラピードッグのハンドラーとして、適切な犬への指示や行動への対処ができるようになる
- ・高齢者に向けたふれあいやレクリエーション現場で体感する(コミュニケーションの実践)

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	活動時の注意 服装 持参品など
2回目	セラピー犬のトレーニング アジリティ器具を使用する
3回目	施設内でのセラピー犬のトレーニング
4回目	屋外でのセラピー犬のトレーニング
5回目	アトラクションを実際に訓練する
6回目	セラピー犬の活動のロールプレイ
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	セラピー犬の適性評価
9回目	コミュニケーションのテスト
10回目	セラピー犬のテスト
11回目	セラピー犬活動実施計画の策定
12回目	セラピー犬の活動実施
13回目	セラピー犬の活動実施
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	活動ふりかえり

準備学習
時間外学習

評価方法

筆記試験：60%
実技試験：20%
レポート：20%

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	犬の飼養管理 (Dog Nutrition and Feeding)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	西嶋 志保
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 木曜日2時限

【授業の学習内容】

犬を飼育するにあたって、犬の社会化や安心して過ごせる環境への配慮、その他法令等、飼い主として果たすべき責任・配慮が必要とされる。この授業では、動物福祉施設及び動物病院での勤務、一般家庭犬のしつけの仕事を行う講師から、仕事での実務経験を基にした犬の飼育に必要な環境や対応を学ぶ。

※実務経験者

動物福祉の現場や動物介在活動に長年関わってきた講師が授業を行う。

【到達目標】

犬と人との関わりについて説明できる。
 人間社会において犬と生活する為の飼い主の責務及びマナーを説明できる。
 犬を家庭動物として飼育する上での基本的な生態に関して説明できる。
 犬のライフステージにおける成長と必要なしつけに関して説明できる。
 授業を通して様々な価値観に触れ、自分なりの飼養感を育て言葉にすることが出来る。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	ガイダンス・自己紹介
2回目	人の犬の関わり方の歴史
3回目	HAB
4回目	動物愛護法(復習テスト)
5回目	動物愛護法
6回目	動物愛護法
7回目	動物愛護法
8回目	動物愛護法・ワーク
9回目	(復習テスト)、犬の本能と習性
10回目	本能と習性ワーク
11回目	コミュニケーション
12回目	コミュニケーション・ストレスサイン
13回目	復習テスト・ストレスサイン
14回目	前期評価及び振り返り
15回目	犬のライフステージ

準備学習
時間外学習

評価方法

期末評価(筆記): 40%
 小テスト、レポート評価: 30%
 授業参加度: 30%

【使用教科書・教材・参考書】 □

講師作成資料

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	犬の飼養管理 (Dog Nutrition and Feeding)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	西嶋 志保
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 木曜日2時限

【授業の学習内容】

犬を飼育するにあたって、犬の社会化や安心して過ごせる環境への配慮、その他法令等、飼い主として果たすべき責任・配慮が必要とされる。この授業では、動物福祉施設及び動物病院での勤務、一般家庭犬のしつけの仕事を行う講師から、仕事での実務経験を基にした犬の飼育に必要な環境や対応を学ぶ。

※実務経験者

動物福祉の現場や動物介在活動に長年関わってきた講師が授業を行う。

【到達目標】

犬と人との関わりについて説明できる。
 人間社会において犬と生活する為の飼い主の責務及びマナーを説明できる。
 犬を家庭動物として飼育する上での基本的な生態に関して説明できる。
 犬のライフステージにおける成長と必要なしつけに関して説明できる。
 授業を通して様々な価値観に触れ、自分なりの飼養感を育て言葉にすることが出来る。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	犬のライフステージ
2回目	犬のライフステージ・社会化ワーク
3回目	犬のライフステージ
4回目	犬のライフステージ 復習テスト
5回目	犬のライフステージ 犬を迎える
6回目	犬を迎える・家庭犬のしつけ
7回目	家庭犬のしつけ・トレーニング
8回目	「犬と猫と人間と」
9回目	「犬と猫と人間と」
10回目	「犬と猫と人間と」 レポート
11回目	食事管理
12回目	危機管理
13回目	衛生管理
14回目	後期評価及び振り返り
15回目	犬を送る

準備学習
時間外学習

評価方法

期末評価(筆記):40%
 小テスト、レポート評価:30%
 授業参加度:30%

【使用教科書・教材・参考書】 □

講師作成資料

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	コンパニオンドッグ (Companion Dog)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	間 美加
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜日1時限

【授業の学習内容】

犬はこれまで歴史と共に用途に向けて品種改良され、日本国内でも数多くの犬種が登録されている。この授業では犬種の特徴を活かしたスポーツドッグの育成・トレーニングに長く携わる講師が、JKCに登録されている犬種の歴史や用途、特徴を解説する。

※実務経験者

犬種の特徴を活かしたスポーツドッグの育成・トレーニングに長く携わり、日本フリスビードッグ協会主催の大会で数多くの入賞経験を持つ講師が授業を担当する

【到達目標】

JKCにおける10グループ分類と各グループの代表的な犬種を説明できる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	犬の歴史、進化と品種改良
2回目	グループ内容説明、JKC公認犬種
3回目	第1グループ シェパード
4回目	第1グループ コリー犬種、シェパード
5回目	第1グループ キャトルドッグ、その他
6回目	第2グループ ピンシャー&シュナウザー
7回目	第2グループ モロシアン犬種説明
8回目	第2グループ スイスマウンテンドッグ
9回目	第3グループ テリア、狩猟犬種～愛玩犬
10回目	第3グループ 犬種説明
11回目	第3グループ 犬種説明
12回目	第4グループ ダックスフンド
13回目	第5グループ スピッツ 日本犬種
14回目	前期評価及び振り返り①
15回目	振り返り②

準備学習 時間外学習	
---------------	--

評価方法	筆記試験:70% 授業参加度:30%
------	-----------------------

【使用教科書・教材・参考書】

最新犬種図鑑(インターズー)

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	コンパニオンドッグ (Companion Dog)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	間 美加
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜日3時限

【授業の学習内容】

犬はこれまで歴史と共に用途に向けて品種改良され、日本国内でも数多くの犬種が登録されている。この授業では犬種の特徴を活かしたスポーツドッグの育成・トレーニングに長く携わる講師が、JKCに登録されている犬種の歴史や用途、特徴を解説する。

※実務経験者

犬種の特徴を活かしたスポーツドッグの育成・トレーニングに長く携わり、日本フリスビードッグ協会主催の大会で数多くの入賞経験を持つ講師が授業を担当する

【到達目標】

JKCにおける10グループ分類と各グループの代表的な犬種を説明できる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	第5グループ スピッツの歴史、犬種説明
2回目	第5グループ プリミティブタイプ
3回目	狩猟犬とグループ分け内容
4回目	第6グループ 犬種説明
5回目	第7グループ 犬種説明
6回目	第8グループ レトリバー
7回目	第8グループ その他の犬種説明
8回目	第10グループ サイトハウンド
9回目	第9グループ 愛玩犬の歴史
10回目	第9グループ 人気犬種の説明
11回目	第9グループ その他の犬種
12回目	第1グループ～第10までの復習
13回目	非公認犬種(Mixやハイブリッド含む)
14回目	後期評価及び振り返り①
15回目	振り返り②

準備学習
時間外学習

評価方法

筆記試験:70%
授業参加度:30%

【使用教科書・教材・参考書】 □

最新犬種図鑑(インターズー)

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	問題行動トレーニング (Training for Solving Problems)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	山本 祐紀
	専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限

【授業の学習内容】

ドッグトレーナーとして飼い主の相談を受ける際には、トレーニングの技術だけでなく犬の飼育環境や同居者との関わり、家族構成、様々な情報から問題の本質を考える力が必要となる。この授業では犬のしつけの相談事例に関する原因や改善策、飼い主への伝え方を学ぶ。

※実務経験者

飼い主向けに犬のしつけ相談やデイケア等のサービスを提供する施設を運営する傍ら、セミナー講師も務めるドッグトレーナーが授業を実施する。

【到達目標】

現代の飼い主が求める犬との暮らし方を理解し、更にビジネスに繋げる。
犬の問題行動の原因を、環境や飼い主の行動から考え、ケースデータを作成する。
対飼い主に、聞く・説明する・相談に答える・飼い主を支えるなどの接客技術を発揮できるようになる。

授業計画・内容

1回目	これからの授業について。ビジネスの成長戦略としてしつけ相談を考える。
2回目	ケースデータ【一人暮らしで犬を飼った時に起こり得る問題行動とその原因】を作成
3回目	ケースデータ【一人暮らしで犬を飼った時に起こり得る問題行動とその原因】を作成
4回目	ケースデータ【子どもがいる家族で犬を飼った時に起こり得る問題行動とその原因】を作成
5回目	ケースデータ【子どもがいる家族で犬を飼った時に起こり得る問題行動とその原因】を作成
6回目	ケースデータ【複数頭で犬を飼った時に起こり得る問題行動とその原因】を作成
7回目	しつけがうまくいかない理由の把握する。
8回目	お悩み相談を受ける前に必要なこと。
9回目	実際の相談事例を元に、数件の相談を解決していく。【相談内容: 食事に関する質問】
10回目	実際の相談事例を元に、数件の相談を解決していく。【相談内容: 食事に関する質問】
11回目	実際の相談事例を元に、数件の相談を解決していく。【相談内容: 食事に関する質問】
12回目	カウンセリング技術と心理テクニック
13回目	実際の相談事例を元に、数件の相談を解決していく。【相談内容: 食事に関する質問】
14回目	前期評価及び振り返り①
15回目	振り返り②

準備学習
時間外学習

評価方法

筆記試験: 80%
授業参加度: 20%

【使用教科書・教材・参考書】 □

講師作成資料

参考資料: 「犬の心理栄養学(入門編)」 「素晴らしき家族(ドッグライフカウンセラー教本)」

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	問題行動トレーニング (Training for Solving Problems)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	山本 祐紀
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜日4時限

【授業の学習内容】

ドッグトレーナーとして飼い主の相談を受ける際には、トレーニングの技術だけでなく犬の飼育環境や同居者との関わり、家族構成、様々な情報から問題の本質を考える力が必要となる。この授業では犬のしつけの相談事例に関する原因や改善策、飼い主への伝え方を学ぶ。

※実務経験者

飼い主向けに犬のしつけ相談やデイケア等のサービスを提供する施設を運営する傍ら、セミナー講師も務めるドッグトレーナーが授業を実施する。

【到達目標】

現代の飼い主が求める犬との暮らし方を理解し、更にビジネスに繋げる。
犬の問題行動の原因を、環境や飼い主の行動から考え、ケースデータを作成する。
対飼い主に、聞く・説明する・相談に答える・飼い主を支えるなどの接客技術を発揮できるようになる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	実際の相談事例を元に、数件の相談を解決していく。【相談内容:食事に関する質問】
2回目	実際の相談事例を元に、数件の相談を解決していく。【相談内容:食事に関する質問】
3回目	カウンセリング技術と心理テクニック
4回目	トイレトレーニングに関する基礎知識
5回目	実際の相談事例を元に、数件の相談を解決していく。【相談内容:トイレトレーニング】
6回目	実際の相談事例を元に、数件の相談を解決していく。【相談内容:トイレトレーニング】
7回目	実際の相談事例を元に、数件の相談を解決していく。【相談内容:トイレトレーニング】
8回目	実際の相談事例を元に、数件の相談を解決していく。【相談内容:トイレトレーニング】
9回目	カウンセリング技術と心理テクニック
10回目	カウンセリング技術と心理テクニック
11回目	実際の相談事例を元に、数件の相談を解決していく。【相談内容:トイレトレーニング】
12回目	実際の相談事例を元に、数件の相談を解決していく。【相談内容:トイレトレーニング】
13回目	カウンセリング技術と心理テクニック
14回目	カウンセリング技術と心理テクニック
15回目	後期評価及び振り返り・1年間のまとめ

準備学習
時間外学習

評価方法

筆記試験:80%
授業参加度:20%

【使用教科書・教材・参考書】 □

講師作成資料

参考資料:「犬の心理栄養学(入門編)」 「素晴らしき家族(ドッグライフカウンセラー教本)」

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	学内犬飼育演習 (Dog Care Practice)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	松尾 彩加
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜3限目

【授業の学習内容】

これから2年間関わる学内犬について理解し、関係性を築く事は今後のトレーニング演習での犬の扱いや反応にも影響する。この授業では、施設内での犬の飼育管理で必要となる、犬舎の衛生管理、犬とのコミュニケーション、日頃の体調管理等を学内犬飼育クラブ指導員(ドッグトレーナー)から学び、実践する。

※実務経験者

家庭犬トレーナーとして犬のしつけ教室や幼稚園等の業務を行う傍ら、災害救助犬の訓練やハンドラーとして現場に携わっている講師が授業を実施する。

【到達目標】

犬舎を衛生的に保つための掃除ができる
 学内犬のコンディションを自らチェックし、正常な状態との違いに気づくことができる
 犬の適切な運動に取り組むことができる(おもちゃ選び、散歩のマナー等)
 学内犬の課題(問題行動やトリック等)に取り組むことができる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	授業オリエンテーション 犬舎の仕組み
2回目	犬とのコミュニケーション①
3回目	犬とのコミュニケーション②
4回目	衛生管理の必要性、使用する道具類、犬舎掃除の実践
5回目	ボディコンディションスコア(BCS)、適正な食事量
6回目	食事の与え方の工夫(知育トイの使用等)
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	ケアの必要性と使用する道具類
9回目	ブラッシング
10回目	爪切り、耳掃除
11回目	シャンプー、ドライング
12回目	予防薬、投薬(点耳、点眼)の仕方
13回目	前期の復習
14回目	前期評価及び振り返り①
15回目	振り返り②

準備学習
時間外学習

評価方法

筆記試験: 60%
 レポート提出及び評価: 30%
 授業参加度: 10%

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	学内犬飼育演習 (Dog Care Practice)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	松尾 彩加
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜3限目

【授業の学習内容】

これから2年間関わる学内犬について理解し、関係性を築く事は今後のトレーニング演習での犬の扱いや反応にも影響する。この授業では、施設内での犬の飼育管理で必要となる、犬舎の衛生管理、犬とのコミュニケーション、日頃の体調管理等を学内犬飼育クラブ指導員(ドッグトレーナー)から学び、実践する。

※実務経験者

家庭犬トレーナーとして犬のしつけ教室や幼稚園等の業務を行う傍ら、災害救助犬の訓練やハンドラーとして現場に携わっている講師が授業を実施する。

【到達目標】

犬舎を衛生的に保つための掃除ができる
 学内犬のコンディションを自らチェックし、正常な状態との違いに気づくことができる
 犬の適切な運動に取り組むことができる(おもちゃ選び、散歩のマナー等)
 学内犬の課題(問題行動やトリック等)に取り組むことができる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	適正な運動量、散歩マナー
2回目	屋内で可能な運動、散歩練習
3回目	コンディションに合わせた運動
4回目	外での練習
5回目	外での練習
6回目	学習理論(レスポンド、オペラント)
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	トレーニング 課題設定
9回目	トレーニング 課題に向けた練習①
10回目	トレーニング 課題に向けた練習②
11回目	トレーニング 課題に向けた練習③
12回目	トレーニング 課題に向けた練習④
13回目	トレーニング 課題に向けた練習⑤
14回目	後期評価及び振り返り
15回目	1年間の振り返り

準備学習
時間外学習

評価方法

筆記試験: 60%
 実技試験: 30%
 授業参加度: 10%

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	動物栄養学 (Animal Nutrition Science)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	本村 伸子
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜5限目

【授業の学習内容】

犬の体調やライフステージに応じた食事は、犬の健康状態及び暮らしそのものを豊かにする重要な要素である。この授業では、犬が健康を保つために必要な栄養素を学ぶとともに、授業内での手作り食の実演を行う。

※実務経験者

獣医師免許を持ち、ナチュラルケア・アドバイザーとして犬の病気の予防や食事に関するセミナーを開催している講師が授業を実施する。

【到達目標】

犬が生活するうえで必要とする栄養素を理解し、説明できる
 栄養を摂取する為に必要な方法や食材を理解し、説明できる
 犬の体調やライフステージに合わせた食事を検討・提案できるようになる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	授業の進め方
2回目	ペットフードのメリット
3回目	ペットフードのデメリット
4回目	ペットフードのデメリット
5回目	ペットフードのデメリット
6回目	ペットフードの選び方① 添加物:酸化防止剤・取り扱い方注意点
7回目	ペットフードの選び方① 添加物:増粘剤・保存料
8回目	ペットフードの選び方① 添加物:着色料・甘味料・その他
9回目	ペットフードの選び方② 原材料
10回目	ペットフードの選び方③ 保証分析値
11回目	ペットフードの選び方④ 手作り食との併用:白血球増加症
12回目	ペットフードの選び方④ 手作り食との併用:移行方法
13回目	身体の構造と栄養素:犬と猫の違い
14回目	身体の構造と栄養素
15回目	前期のまとめ

準備学習
時間外学習

評価方法

筆記試験:80%
授業参加度:20%

【使用教科書・教材・参考書】 □

必要に応じてDVD等の視覚教材を使用

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	動物栄養学 (Animal Nutrition Science)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	本村 伸子
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜5限目

【授業の学習内容】

犬の体調やライフステージに応じた食事は、犬の健康状態及び暮らしそのものを豊かにする重要な要素である。この授業では、犬が健康を保つために必要な栄養素を学ぶとともに、授業内での手作り食の実演を行う。

※実務経験者

獣医師免許を持ち、ナチュラルケア・アドバイザーとして犬の病気の予防や食事に関するセミナーを開催している講師が授業を実施する。

【到達目標】

犬が生活するうえで必要とする栄養素を理解し、説明できる
 栄養を摂取する為に必要な方法や食材を理解し、説明できる
 犬の体調やライフステージに合わせた食事を検討・提案できるようになる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	栄養素① 糖質
2回目	栄養素② タンパク質
3回目	栄養素② タンパク質
4回目	栄養素③ 脂質
5回目	栄養素④ ビタミン
6回目	栄養素④ ビタミン
7回目	栄養素⑤ ミネラル
8回目	栄養素⑤ ミネラル
9回目	栄養素⑥ 抗酸化物
10回目	シニア期の健康管理
11回目	シニア期の健康管理
12回目	シニア期の健康管理
13回目	DVDを使って犬との生活について解説
14回目	評価及び振り返り
15回目	全体の復習

準備学習
時間外学習

評価方法

口頭試問:80%
授業参加度:20%

【使用教科書・教材・参考書】

必要に応じてDVD等の視覚教材を使用

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	繁殖と遺伝 (Breeding and inheritance)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	寺田 光徳
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜日3時限

【授業の学習内容】

健康な犬の繁殖にあたり、種牡犬の選定を理解する。又、犬の生殖器の仕組みや交配・出産のメカニズムを学ぶ。

※実務経験者

JKC九州ハンドラー委員会委員長 JKC福岡県連合会幹事長を務め、ドッグショーの審査、及び20年以上講師を勤める動物専門学校にて後進の指導を行い、フレンチブルドッグを専門に繁殖。ショーに参加して犬質の向上に尽力している。

【到達目標】

犬種標準・交配の良否・牡犬の生殖生理の基礎知識を学び、ブリーディングの知識を身に付ける。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	繁殖とは
2回目	繁殖と目的について
3回目	繁殖の分類について学ぶ
4回目	血統書について
5回目	血統書 繁殖生理(生殖器官の構造)
6回目	生殖器官の構造 雄犬の繁殖生理
7回目	雌犬の繁殖生理について
8回目	雌犬の選び方
9回目	交配について
10回目	妊娠について
11回目	出産について
12回目	出産について
13回目	斉仔と仔犬の成長 新生仔の育て方について
14回目	前期評価テスト及び振り返り
15回目	斉仔と仔犬の成長 新生仔の育て方について

準備学習
時間外学習

評価方法

筆記試験(100%)

【使用教科書・教材・参考書】 □

プリント配布(JKC畜産飼育管理教本)

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	ナチュラルケア (Natural Care)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	本村 直子
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜2限目

【授業の学習内容】

犬との暮らしではただ「飼う」ではなく食事や住環境、心身の健康を考える必要がある。この授業では、ナチュラルケア(自然療法)の基本である「心身ともに病気になりにくい、健康な身体作り」の為にホリスティックの観点からどのようなケアが必要なのかを学ぶ。

※実務経験者

コンパニオンアニマル・アドバイザーとして、飼い主とその愛犬の暮らしをより豊かなものにする為のカウンセリングやマナーズクール、セミナーを開催する講師が授業を実施する。

【到達目標】

ナチュラルケアの基本的な概念を理解し説明できる
 自然治癒力を高める方法を理解し説明できる
 犬に対するナチュラルケア(生活のサイクルや食事、環境、心の在り方)を理解し説明できる

授業計画・内容

1回目	授業内容とすすめ形についての説明、自己紹介
2回目	ナチュラルケアとは？(基本的な考え方を理解する)
3回目	ナチュラルケアとは？(心身の健康のために必要な事とは？)
4回目	ナチュラルケアとは？(心身の健康のために必要な事とは？体のバランスについて理解する)
5回目	ナチュラルケアとは？(心身の健康のために必要な事とは？心のバランスについて理解する)
6回目	ナチュラルケアとは？(心身の健康のために必要な事とは？気のバランスについて理解する)
7回目	犬に対するナチュラルケア(犬たちのために出来る事を理解する)
8回目	犬に対するナチュラルケア(現代の犬たちのライフスタイルを考える)
9回目	犬に対するナチュラルケア(現代の犬たちのライフスタイルを考える)
10回目	犬に対するナチュラルケア(正しい栄養とは？を考える)
11回目	犬に対するナチュラルケア(環境を整えるとは？を考える)
12回目	犬に対するナチュラルケア(心の安定とは？と考える)
13回目	犬に対するナチュラルケア(心の安定とは？と考える)
14回目	評価及び振り返り
15回目	犬に対するナチュラルケア(その他の療法・マッサージ、テリントンタッチ、ハーブ、漢方薬、アロマセラピー、バッチフラワーレメディなど)を紹介

準備学習 時間外学習	
---------------	--

評価方法	期末評価(筆記):80% 授業参加度:20%
------	---------------------------

【使用教科書・教材・参考書】 □

動物を管理する者は、自分の心身の管理が出来なければならない。
 前半は自分(人)の心身の健康を整えるために必要な事について説明する。

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	グルーミング概論 (Introduction to Basic Grooming)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	寺田 光徳
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日2時限
<p>【授業の学習内容】 犬の健康維持促進のためには犬自体を清潔に保つ必要がある。この科目では犬のグルーミングを行う目的や効果を理解し、実践する際に共通認識として把握しておくべき用語を学ぶとを目的とする。</p> <p>※実務経験者 JKC九州ハンドラー委員会委員長 JKC福岡県連合会幹事長を務め、ドッグショーの審査、及び20年以上講師を勤める動物専門学校にて後進の指導を行い、フレンチブルドッグを専門に繁殖。ショーに参加して犬質の向上に尽力している。</p>							
<p>【到達目標】 グルーミングの目的を説明できる。 犬体各部位名称を言える。</p>							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	畜犬団体・スタンダードについて
2回目	グルーミングの目的
3回目	ブリーディング
4回目	犬の飼育方法
5回目	犬の飼育方法
6回目	グルーミング用品
7回目	被毛の構造
8回目	シャンプー剤の基礎知識
9回目	小型犬のペイシング
10回目	小型犬のペイシング
11回目	ゴールデンレトリバーのグルーミング
12回目	グルーマーの獣医学
13回目	復習
14回目	評価及び振り返り
15回目	グルーマーの基本
準備学習 時間外学習	
評価方法	筆記試験:100%
<p>【使用教科書・教材・参考書】 □</p>	

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	グルーミング演習 (Practice of Basic Grooming)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	寺田 光徳
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜日1・2時限

【授業の学習内容】

犬の健康維持促進のためには犬自体を清潔に保つ必要がある。この科目では前期に学んだ概論をもとに、生体を用いながらグルーミング技術を身に付ける。

※実務経験者

JKC九州ハンドラー委員会委員長 JKC福岡県連合会幹事長を務め、ドッグショーの審査、及び20年以上講師を勤める動物専門学校にて後進の指導を行い、フレンチブルドッグを専門に繁殖。ショーに参加して犬質の向上に尽力している。

【到達目標】

犬種・個体に合わせたグルーミングを実践することができる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	授業オリエンテーション
2回目	グルーミング実習
3回目	グルーミング実習
4回目	グルーミング実習
5回目	グルーミング実習
6回目	グルーミング実習
7回目	グルーミング実習
8回目	グルーミング実習
9回目	グルーミング実習
10回目	グルーミング実習
11回目	グルーミング実習
12回目	グルーミング実習
13回目	グルーミング実習
14回目	評価及び振り返り
15回目	グルーミング実習
準備学習 時間外学習	
評価方法	授業参加度:100%
【使用教科書・教材・参考書】 □	

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	人と動物との関係学 (Study for Relationship of Human and Dog)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	本村 直子
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 水曜日2時限

【授業の学習内容】

飼い主に対して犬との関わり方、暮らし方を提案するには、自らが現代で求められる飼い主責任や犬に関する課題、その予防に対する考えを持つことが大切。この授業では、動物福祉や飼い主責任、コミュニケーション、ペットロスなど様々な観点から犬との関わり方を解説する。

※実務経験者

コンパニオンアニマル・アドバイザーとして、飼い主とその愛犬の暮らしをより豊かなものにする為のカウンセリングやマナーズクール、セミナーを開催する講師が授業を実施する。

【到達目標】

犬とのより良い関係を築く為の、犬の正しい知識や問題の予防、飼い主としての責任を学び理解する
ペットロスや安楽死の選択など、飼い主と犬が別れを迎える事に対する捉え方や向き合い方を考えられるようになる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	授業内容と進め方
2回目	人と動物との関わり(日本人とペットの関係性の特徴)
3回目	人と動物との関わり(日本人とペットの関係性の特徴)
4回目	人と動物との関わり(日本人とペットの関係性における負の側面)
5回目	犬とのより良い関係作りの為に必要な事は？
6回目	犬とのより良い関係作りの為に必要な事は？(犬への正しい理解とは？)
7回目	犬とのより良い関係作りの為に必要な事は？(犬との正しいコミュニケーションとは？)
8回目	犬とのより良い関係作りの為に必要な事は？(問題行動の予防)
9回目	犬とのより良い関係作りの為に必要な事は？(飼い主としての責任)
10回目	犬とのより良い関係作りの為に必要な事は？(飼い主としての責任)
11回目	犬とのより良い関係作りの為に必要な事は？(飼い主としての責任)
12回目	絆(関係)が失われる時(ペットロスとは？)
13回目	絆(関係)が失われる時(ペットロスとは？)
14回目	評価及び振り返り
15回目	絆(関係)が失われる時(安楽死のガイドライン)

準備学習
時間外学習

評価方法

期末評価(筆記): 80%
授業参加度: 20%

【使用教科書・教材・参考書】 □

犬と共感できる関係を築くヒントになれば嬉しいです

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	動物の法律 (Law for Animal)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	村田 倫子
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日4時限

【授業の学習内容】

動物に関する法律の中で特に知っておかなければならないものを中心に学習する。

※実務経験者

大野城市白水警察犬訓練学校にて警察犬訓練士

P2&Associates株式会社において鳥、小動物飼育責任者、と店長、営業を経験。OPDESプロフェッショナルドッグトレーナー、アジリティインストラクターの資格を持ち、現在は家庭犬訓練、しつけ、パピートレーニングなどに取り組む講師が授業を行う。

【到達目標】

動物に関わる仕事の中で必要度の高い法律を理解し、説明できるようになる。
法令遵守の意識を高める。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	法律の意味、重要性について
2回目	法令のしくみ コンプライアンスとは
3回目	動物の愛護及び管理に関する法律、概要
4回目	動物の愛護及び管理に関する法律、動物取扱業者の規制について
5回目	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律
6回目	鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律
7回目	中間評価及び振り返り①
8回目	中間評価及び振り返り②
9回目	野生動植物保護に関する法律、国際条約のまとめ
10回目	狂犬病予防法
11回目	身体障害者補助犬法
12回目	特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律
13回目	愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律
14回目	期末評価及び振り返り①
15回目	振り返り②

準備学習
時間外学習

法律用語や難しい表現が多いので復習としてプリントの見直しや知識の定着に努めることが重要。

評価方法

中間テスト40%、期末テスト40%、授業内評価20%

【使用教科書・教材・参考書】 □

プリント配布

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	コンピュータ演習 (Practice of Computer)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	千葉恵一・井口恵美里・芳村周一
専攻名	各専攻1年生	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	月3・4・5 金2 木3 金3・4・5 火1・2 水3・4 上記のいずれか

【授業の学習内容】

業種を問わず必要とされる「コンピュータの操作」を勉強していく
 前期は「Word」を使い「レポート」や「写真を貼った文章」が作れるように勉強していく。また、安全にインターネットを利用できるように「ITリテラシー」も勉強する
 前期・後期をまたぎ「PowerPoint」でスライド作成の勉強をする。
 基本的な授業の進め方は、今日勉強する事の説明→教科書の説明→プロジェクターで実演→PCで操作とする。

※実務経験者

滋慶学園各校でコンピュータ授業講師(20年)

【到達目標】

教科書を読みながら、書かれている操作が出来るようになる
 Wordを使ってレポート作成が出来るようになる
 安全にインターネットを利用できるようになる
 「We are ECO」のスライドが作れるようになる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	USBメモリー紛失対策・USBメモリーの使い方等／ITリテラシー①
2回目	ITリテラシー②
3回目	Wordの基本操作(主に文章入力)
4回目	Wordの基本操作(主に文章編集)
5回目	Wordの基本操作(主に写真を貼り付けた文章の作成)
6回目	Wordの基本操作(主に図形を描画して色・線種を変更する)
7回目	Wordの基本操作(課題提出)
8回目	Word中級編(主に表を挿入し読みやすい表に整形する)
9回目	Word中級編(文章作成の役に立つ機能を勉強する)
10回目	Word中級編(図+文字で他人の関心を引く文章を作成する)
11回目	Wordの応用(計算式を入力してみる)
12回目	Wordの応用(レポート作成に便利な機能を勉強する)
13回目	Wordの応用(繰り返し利用する文章を簡単に作る方法を勉強する)
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	PowerPoint基礎(文字だけもの・画像を入れたもの・グラフ等を入れたもの)

準備学習
時間外学習

評価方法

授業内評価: 60%
 期末テスト: 40% ※提出作品(データで提出)

【使用教科書・教材・参考書】 □

COMPUTER BASIC Word
 COMPUTER BASIC Excel

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	コンピュータ演習 (Practice of Computer)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	千葉恵一・井口恵美里・芳村周一
専攻名	各専攻1年生	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 月3・4・5 金2 木3 金3・4・5 火1・2 水3・4 上記のいずれか

<p>【授業の学習内容】</p> <p>業種を問わず必要とされる「コンピュータの操作」を勉強していく 後期は「Excel」を使い「計算式が入った表」や「読みやすいグラフの作り方」を勉強していく Excelへの苦手意識を少しでも減らす講義にする 基本的な授業の進め方は、今日勉強する事の説明→教科書の説明→プロジェクターで実演→PCで操作とする。</p> <p>※実務経験者 滋慶学園各校でコンピュータ授業講師(20年)</p>
<p>【到達目標】</p> <p>Excelへの苦手意識を少しでも減らす 教科書を読みながら、書かれている操作が出来るようになる Excelを使って計算式が入った表やグラフが作成できるようになる 「We are ECO」のスライドを作成する</p>

授業計画・内容

1回目	PowerPoint基礎(印刷、スライドマスター、切り替え効果、アニメーション)
2回目	PowerPoint課題提出
3回目	Excelの基礎①
4回目	Excelの基礎②
5回目	Excelの基礎③
6回目	Excelの基礎④
7回目	Excel中級編①
8回目	Excel中級編②
9回目	Excel中級編③
10回目	Excel中級編④
11回目	Excelの応用①
12回目	Excelの応用②
13回目	Excelの応用③
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	まとめ

準備学習 時間外学習	
評価方法	授業内評価:60% 期末テスト:40% ※提出作品(PowerPoint作品提出・Excel作品提出)

<p>【使用教科書・教材・参考書】 □</p> <p>COMPUTER BASIC Word COMPUTER BASIC Excel</p>

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	英会話 (English Conversation)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	ジェイ・パラリーノ
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日1時限

【授業の学習内容】

外国の方と接する際、恥ずかしがらずに挨拶や基本的な事を英語で話し、更に自分から話しかけることができるよう学習する。
ただ座って聞くだけではなく、アクティビティに参加しながら体感的に学んでいく。

※実務経験者

2001年より日本にて英会話講師の経験あり。

【到達目標】

- ・日常生活の様々な場面で使える頻度の高い英語の文法を会話に当てはめて使えるようになること。
- ・授業でのコミュニケーションな会話の実践を通して、相手の会話をすぐに理解し、積極的な対応ができる技術を身につけること(自信を持って尚且つ丁寧に相手の話を聞き、返答ができるようになること)

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	L. 1	イントロダクション、プレテスト、初対面のあいさつ～お別れまでの会話をします。
2回目	L. 3	パーソナルインフォメーションに関する一般的な質問をする。
3回目	L. 6	好き・嫌い等の好みについての会話をします。
4回目	L. 8	意見を尋ねる/意見を述べる。
5回目	L. 9 & 10	家族や性格について話す。
6回目	L. 11	人を褒める&褒められた際の会話表現 (衣服など)
7回目	L. 7, 13	時間について表現する。日々の習慣について話す。
8回目	L. 14	補足質問をする。
9回目	L. 19 & 20	道案内をする・場所を尋ねる。
10回目	L. 21 & 23	数やお金の数え方・価格や頻度についての質問や受け答えをする。
11回目	L. 28	料理の味や材料について&レストランでのオーダー方法を学ぶ。
12回目	L. 29 & 30	過去の出来事について話す&質問する。
13回目	L. 32	未来の予定について話す。
14回目	期末評価及び振り返り①	
15回目	振り返り②	

準備学習 時間外学習	事前に教科書を読んでおきましょう。
---------------	-------------------

評価方法	学期末に筆記試験あり(定期試験100%)
------	----------------------

【使用教科書・教材・参考書】 □

Speak Now I

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	キャリアプランニング I (Carrier planning- I)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	江口 僚悟
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜日1時限

【授業の学習内容】

良識ある社会人になるために、必要なコミュニケーション能力を身につけ、良好な人間関係を築くことができる力を養う。
担任とクラスメイトとのコミュニケーションを図り、各種イベントの成功を共同目標として取り組み、チームの達成感やチームコミュニケーションを学ぶ。

【到達目標】

社会人となる心得や一般教養を学び社会人としての常識を身につける。
チームコミュニケーションを通して、クラスの集団行動(活動)を通して、企業(施設)におけるチームで働くことができるようになる。
卒業時を目標に時期・時間ごとの計画をたて、実行し、達成する力をつけ、自立した社会人として生きる力を身につける。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	JESCサポートアンケート/学習ポートフォリオガイダンス/個人面談に関して
2回目	GWの過ごし方/学園祭に関して/学内施設使用規定の再確認
3回目	チームビルディング①/電話の掛け方(内線含む)及びメールの送り方
4回目	DVD鑑賞「イヌは人生のパートナー」/レポート記入
5回目	学生スタッフの案内(体験入学・合説)/東公園マナーアップイベントに関して
6回目	グリーンハート筑紫野現場実習に関して①/中間評価
7回目	東公園新聞ネタ集め
8回目	学園祭振り返り
9回目	海外実学研修ガイダンス①/わん！ダフルフェスタに関して
10回目	グリーンハート筑紫野現場実習に関して(履歴書・研修先決定報告書・研修ノート・手紙の書き方)OB・OGセミナーに関して①
11回目	OB・OGセミナーに関して②(聴講の姿勢)/東公園新聞ネタ集め
12回目	チームビルディング②/夏季休暇の過ごし方/入学以降の振り返り
13回目	チームビルディング③/試験規定に関して
14回目	海外実学研修ガイダンス②/東公園新聞ネタ集め/前期評価
15回目	前期振り返り/追再試験に関して/履歴書・立志作文コンテストに関して/履歴書の書き方①

準備学習
時間外学習

評価方法

筆記試験:15%
授業参加度:60%
作品提出:25%

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	キャリアプランニング I (Carrier planning- I)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	江口 僚悟
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	月曜日2時限

【授業の学習内容】

良識ある社会人になるために、必要なコミュニケーション能力を身につけ、良好な人間関係を築くことができる力を養う。
担任とクラスメイトとのコミュニケーションを図り、各種イベントの成功を共同目標として取り組み、チームの達成感やチームコミュニケーションを学ぶ。

【到達目標】

社会人となる心得や一般教養を学び社会人としての常識を身につける。
チームコミュニケーションを通して、クラスの集団行動(活動)を通して、企業(施設)におけるチームで働くことができるようになる。
卒業時を目標に時期・時間ごとの計画をたて、実行し、達成する力をつけ、自立した社会人として生きる力を身につける。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	チームビルディング④/履歴書の書き方②/学友会執行部に関して
2回目	履歴書の書き方③/FCIドッグショーに関して/東公園新聞ネタ集め
3回目	海外実学研修振り返り
4回目	合同企業説明会に関して
5回目	合同企業説明会振り返り/進路希望調査/個人面談に関して
6回目	We are ECOに関して①/東公園新聞ネタ集め/中間評価
7回目	We are ECOに関して②
8回目	We are ECOに関して③
9回目	We are ECOクラス内発表①
10回目	We are ECOクラス内発表②/冬期休暇の過ごし方
11回目	チームビルディング⑤/東公園新聞ネタ集め
12回目	試験規定に関して/追再試験に関して
13回目	前期評価
14回目	東公園新聞ネタ集め
15回目	選択授業に関して/資格検定試験に関して

準備学習
時間外学習

評価方法

筆記試験:15%
授業参加度:60%
作品提出:25%

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	エコ教養Ⅱ (Human Study-Ⅱ)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	江口 僚悟
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜日4時限

【授業の学習内容】

良識ある社会人になるために、必要なコミュニケーション能力を身につけ、良好な人間関係を築くことができる力を養う。
担任とクラスメイトとのコミュニケーションを図り、各種イベントの成功を共同目標として取り組み、チームの達成感やチームコミュニケーションを学ぶ。

【到達目標】

社会人となる心得や一般教養を学び社会人としての常識を身につける。
チームコミュニケーションを通して、クラスの集団行動(活動)を通して、企業(施設)におけるチームで働くことができるようになる。
卒業時を目標に時期・時間ごとの計画をたて、実行し、達成する力をつけ、自立した社会人として生きる力を身に付ける。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	漢字小テスト/犬との暮らし方教室ガイダンス①
2回目	敬語小テスト/学園祭に関して/東公園新聞ネタ集め
3回目	漢字小テスト/犬との暮らし方教室ガイダンス②/進路希望調査/個人面談に関して
4回目	敬語小テスト/アニマルコーディネーター検定対策①/わん！ダフルフェスタに関して
5回目	漢字小テスト/合同企業説明会に関して
6回目	敬語小テスト/アニマルコーディネーター検定対策②
7回目	中間評価/夏季休暇中の業界研修に関して
8回目	漢字小テスト/卒業アルバムに関して①
9回目	敬語小テスト/合同企業説明会振り返り
10回目	漢字小テスト/多和田悟氏VTR鑑賞
11回目	敬語小テスト/業界研修での注意事項再確認
12回目	漢字小テスト/卒業アルバムに関して②/スポーツフェスタに関して
13回目	敬語小テスト/卒業アルバムに関して③/進路希望調査
14回目	前期評価
15回目	前期振り返り/We are ECOに関して①

準備学習
時間外学習

評価方法

筆記試験:15%
授業参加度:60%
作品提出:25%

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	エコ教養Ⅱ (Human Study-Ⅱ)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	江口 僚悟
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜日4時限

【授業の学習内容】

良識ある社会人になるために、必要なコミュニケーション能力を身につけ、良好な人間関係を築くことができる力を養う。
担任とクラスメイトとのコミュニケーションを図り、各種イベントの成功を共同目標として取り組み、チームの達成感やチームコミュニケーションを学ぶ。

【到達目標】

社会人となる心得や一般教養を学び社会人としての常識を身につける。
チームコミュニケーションを通して、クラスの集団行動(活動)を通して、企業(施設)におけるチームで働くことができるようになる。
卒業時を目標に時期・時間ごとの計画をたて、実行し、達成する力をつけ、自立した社会人として生きる力を身に付ける。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	漢字小テスト/We are ECOに関して②
2回目	敬語小テスト/We are ECOに関して③
3回目	漢字小テスト/社会人基礎力①
4回目	敬語小テスト/社会人基礎力②
5回目	漢字小テスト/社会人基礎力③
6回目	敬語小テスト/わん！ダフルフェスタ振り返り
7回目	中間評価
8回目	漢字小テスト/社会人基礎力④
9回目	敬語小テスト/We are ECOクラス内発表
10回目	漢字小テスト/社会人基礎力⑤
11回目	敬語小テスト/社会人基礎力⑥
12回目	漢字小テスト/犬との暮らし方教室最終日に向けて/We are ECO発表練習①
13回目	敬語小テスト/We are ECO研究発表練習②
14回目	後期評価/授業最終週に向けて/We are ECO研究発表練習③
15回目	2年間の振り返り

準備学習
時間外学習

評価方法

筆記試験:15%
授業参加度:60%
作品提出:25%

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	プレゼンテーション I (Presentation I)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	松本 孝生
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜日4時限

【授業の学習内容】

専門能力(知識・技術)だけでは企業人(人)として足りない、現在企業が必要とするホスピタリティ、おもてなし能力を持った人材を養成。「自分の付加価値の高さで勝負する」一つひとつの行動や意識で差をつける

※実務経験者:人材育成、キャリアコンサルタントとして25年のキャリアを持つ。ホテルにて常任顧問として社員教育に従事している。

【到達目標】

自己理解、他者理解、第一印象の重要性、立ち居振る舞い

- 現状の自分を知る事:自己紹介、他己紹介等の発表を通して自己の発表能力や人の考え方・見方を知る
- コミュニケーションの取り方:人と接するとき一步一步前に出る勇気を身に付ける
- 社会人としての一般常識
- 常用漢字の書き取り

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	授業内容の説明、出席返事は明るく元気にハキハキと、手を上げ笑顔で返事、一步一步前に出る勇気、人前で話すことができる人材になる。プレゼンテーション授業のルール。次回の自己紹介の仕方。
2回目	自己紹介 自己表現力
3回目	ジェスチャーゲーム
4回目	挨拶の意味、第一印象の作り方(挨拶・発声・発音・お辞儀)
5回目	一般常識①(マナー・エチケット)
6回目	他己紹介(人間観察力、傾聴心)
7回目	他己紹介(統率力、発表能力)
8回目	一般常識②(敬語の使い方、状況理解)
9回目	伝言ゲーム(集中力、記憶力)
10回目	9Wの授業で各自の気付きや発見
11回目	文書表現①(夏休みの報告)
12回目	発表表現(夏休みの報告)
13回目	文書表現②(挨拶文の書き方)
14回目	文書表現③(日本構文力) ●小論文コミュニケーションとは400文字
15回目	電話対応(対応力・即応力) 掛け方と受け方
準備学習 時間外学習	
評価方法	・評価・授業態度 【授業受講姿勢】30点 ・発表能力40点 【研修先での挨拶を実施2分間テスト】 ・小論文能力30点 【筆記試験を実施小論文プレゼンテーションで学んだことを書く】

【使用教科書・教材・参考書】 □

講師作成資料

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	プレゼンテーション I (Presentation I)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	松本 孝生
	専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限

【授業の学習内容】

専門能力(知識・技術)だけでは企業人(人)として足りない、現在企業が必要とするホスピタリティ、おもてなし能力を持った人材を養成。「自分の付加価値の高さで勝負する」一つひとつの行動や意識で差をつける

※実務経験者:人材育成、キャリアコンサルタントとして25年のキャリアを持つ。ホテルにて常任顧問として社員教育に従事している。

【到達目標】

- 研修先でのマナー、挨拶の仕方、文書表現、挨拶文の書き方が出来るようになる
- 仕事に対する考え方、言葉遣い、電話対応を身に付け対応力・即応力を向上させる
- 物事への好奇心をもち、興味を持つ気持ちを育てる
- 社会人としての常識を身に付ける
- 自己管理、改革を図り自分自身の向上へつなげる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	電話対応(対応力・即応力) 取次ぎ方
2回目	業界研修訪問マナー
3回目	前期13w~2wまでの授業レポート発表
4回目	常用漢字テスト
5回目	会社の言葉、仕事の言葉
6回目	自己表現力テスト
7回目	表現力テスト ※研修先での挨拶を実施2分間テスト
8回目	自己管理のポイント、自己改革
9回目	研修先での挨拶、会話
10回目	今年の抱負
11回目	言葉は文化
12回目	授業レポートの発表
13回目	仕事に求められるもの
14回目	プレゼンテーションを通して ●小論文プレゼンテーションで学んだことを書く
15回目	一年間の復習
準備学習 時間外学習	
評価方法	・評価・授業態度 【授業受講姿勢】30点 ・発表能力40点 【研修先での挨拶を実施2分間テスト】 ・小論文能力30点 【筆記試験を実施小論文プレゼンテーションで学んだことを書く】

【使用教科書・教材・参考書】 □

講師作成資料

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	プレゼンテーションⅡ (PresentationⅡ)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	松本 孝生
	専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限

【授業の学習内容】

就職先に最低限求められる「素直さ・謙虚さ・明るさ」と「マナー・エチケット・一般教養」などの常識を身に付け、
当たり前前することを当たり前前のできる学生を育てる。

※実務経験者：人材育成、キャリアコンサルタントとして25年のキャリアを持つ。ホテルにて常任顧問として社員教育に従事している。

【到達目標】

- 自己表現力の達成度を実感する
- ライフポジションチェック・自分自身の再発見から自分から見た自分、相手から見た自分の評価の違いを考える
- 電話・面接の即応力を身に付け、相手の動きや話の変化にふさわしい対応ができる
- 面接マナーと質疑応答を通して、自信の考え方、目標、ビジョン等の表現力と対応力を学ぶ
- 社会人としての基本的行動、洞察力、発言力を身に付け相手の気持ちを見抜く力をつける

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	授業内容説明
2回目	自己PR 自己表現力の達成度確認と向上力
3回目	ライフポジションチェック 対人関係能力の高め方・自己発見
4回目	ライフポジションチェック 感想レポート、発表
5回目	電話対応の仕方
6回目	面接会場に行くマナーと心構え
7回目	1分プレゼンテーション 志望動機・自己PR等 ●原稿なしで1分間で簡潔に話す
8回目	面接練習① 集団面接
9回目	面接練習② 個人面接
10回目	SPI適性問題テスト
11回目	夏休みの報告（文書表現）
12回目	夏休みの報告（発表表現）
13回目	社会人の基礎知識① 厚生年金・社会保険・雇用保険・税金
14回目	社会人の基礎知識② 慶弔ルール、社交儀礼 ●小論文として学んだこともまとめを宿題として期日までに提出とする
15回目	接遇マナー① 名刺交換
準備学習 時間外学習	
評価方法	・授業態度30% 【授業受講姿勢】 ・発表能力40% 【研修先での挨拶を実施2分間テスト】 ・小論文能力30% 【筆記試験を実施小論文プレゼンテーションで学んだことを書く】

【使用教科書・教材・参考書】 □

講師作成資料

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	プレゼンテーションⅡ (PresentationⅡ)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	松本 孝生
	専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限

【授業の学習内容】

就職先に最低限求められる「素直さ・謙虚さ・明るさ」と「マナー・エチケット・一般教養」などの常識を身に付け、
 当たり前のことを当たり前に行える学生を育てる。

※実務経験者:人材育成、キャリアコンサルタントとして25年のキャリアを持つ。ホテルにて常任顧問として社員教育に従事している。

【到達目標】

- 社会人としての基礎知識を身に付ける
- 人を動かす話し方を学び、自分の考えを相手に伝えるための言動を行う
- 社会の一員としての日常生活のマナーやルール、常識のある行動をとれるようになる
- サービス業に従事する為の基礎知識を身に付ける
- 社会人の言葉遣い・基本的スタンスを学び学生とは違った立場・考え方を行えるようになる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	接遇マナー② お茶の出し方
2回目	接遇マナー③ 応接室、日本間、列車、車
3回目	13w～15w、1～2wの授業で各自の気づきや発見の発表
4回目	漢字一般テスト
5回目	新入社員の心構え① 役職ピラミッド・報告・連絡・相談の重要性
6回目	新入社員の心構え② 上下関係、人間関係、辞表の書き方等
7回目	テーブルマナー 和食のマナー
8回目	テーブルマナー 洋食、中華のマナー
9回目	5w～8w授業レポート発表
10回目	今年の抱負
11回目	サービス業に求められるもの
12回目	人を動かす話し方
13回目	プレゼンテーションを通して
14回目	プレゼンテーションを通して 発表
15回目	プレゼンテーションを通して まとめ
準備学習 時間外学習	
評価方法	・授業態度30% 【授業受講姿勢】 ・発表能力40% 【研修先での挨拶を実施2分間テスト】 ・小論文能力30% 【筆記試験を実施小論文プレゼンテーションで学んだことを書く】

【使用教科書・教材・参考書】 □

講師作成資料

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	コミュニケーションスキルアップ (Communication Skills)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	有限会社セレーノ・コーポレーション
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜日4時限

【授業の学習内容】

社会人として通用するコミュニケーション力を年間を通じ身に付ける事で、学生生活、就職活動、卒業後の社会生活を円滑に送る事ができ、また人生をより豊かにする機会も増える。この科目ではビジネス現場で求められるコミュニケーションや対応、言葉遣いを実践しながら学ぶ。

※実務経験者

各種セミナー(話し方、傾聴、新入社員研修等)を通して人材育成事業に取り組む企業より講師を招き、授業を実施する。

【到達目標】

12月に行われるコミュニケーションスキルアップ検定の合格を目指す。
豊かな人生を送るためにコミュニケーションスキルを発揮できるようになる。

授業計画・内容

1回目	授業の進め方、オリエンテーション(自己紹介)、コミュニケーションの定義【P9～】
2回目	第一印象(コミュニケーションの定義、メラビアンの法則、笑顔の作り方)【P14～】 基本的対話スキル、会話のプロセス
3回目	基本的対話スキル「話し方」【P18～】
4回目	基本的対話スキル「聴き方」【P23～】
5回目	基本的対話スキル「グループでの会話」【P34～】
6回目	ロープレ:情報共有、整理・集約のゲーム①、中間試験対策
7回目	中間評価及び振り返り、自己表現スキル「挨拶」「自己表現」【P42～】
8回目	自己表現スキル「上手な頼み方、断り方」「自己主張」【P46～】
9回目	自己表現スキル「報連相」「会議・ミーティング」【P60～】
10回目	自己表現スキル「アンガーマネジメント」【P80～】
11回目	社会的スキル「基本的な社会的スキル」【P94～】
12回目	社会的スキル「挨拶」「敬語」「電話対応」【P96～】
13回目	前期まとめ
14回目	前期評価及び振り返り
15回目	後期の授業の進め方

準備学習 時間外学習	
---------------	--

評価方法	中間試験20点、期末試験80点=100点
------	----------------------

【使用教科書・教材・参考書】 □

コミュニケーションスキルアップ検定(JESC)

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	コミュニケーションスキルアップ (Communication Skills)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	有限会社セレーノ・コーポレーション
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜日4時限

【授業の学習内容】

社会人として通用するコミュニケーション力を年間を通じ身に付ける事で、学生生活、就職活動、卒業後の社会生活を円滑に送る事ができ、また人生をより豊かにする機会も増える。この科目ではビジネス現場で求められるコミュニケーションや対応、言葉遣いを実践しながら学ぶ。

※実務経験者

各種セミナー(話し方、傾聴、新入社員研修等)を通して人材育成事業に取り組む企業より講師を招き、授業を実施する。

【到達目標】

12月に行われるコミュニケーションスキルアップ検定の合格を目指す。
豊かな人生を送るためにコミュニケーションスキルを発揮できるようになる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	ロープレ:ビジネス電話検定、電話対応ゲーム
2回目	社会的スキル「接客」「訪問」【P105～】
3回目	社会的スキル「謝罪」【P112～】
4回目	ロープレ:接客、訪問、名刺交換
5回目	社会的スキル「ビジネス文書」「メール」「FAX」「SNS」【P116～】
6回目	中間まとめ
7回目	中間評価及び振り返り、サービスマインドとは
8回目	DVD鑑賞 マナーの本質「相手を思いやる心」
9回目	サービスマインド「サービスとは」「サービスの心得」【P126～】
10回目	サービスマインド「サービス基本要素」【P132～】
11回目	ロープレ:ビジネスシュミレーションゲーム(敬語・電話対応・訪問・接客)
12回目	謝罪(謝る、お詫びする) マナーを意識した行動
13回目	後期まとめ
14回目	後期末評価及び振り返り、ビジネスシュミレーションワーク
15回目	1年間の総復習、ロープレ

準備学習 時間外学習	
---------------	--

評価方法	中間試験20点、期末試験80点=100点
------	----------------------

【使用教科書・教材・参考書】 □

コミュニケーションスキルアップ検定(JESC)

2019年度 シラバス

ドッグトレーナー専攻

科目名 (英語表記)	動画制作 (Video Production)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	田中 守
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜日5時限

【授業の学習内容】

SNS時代のWeb広告戦略概論
動画制作の座学と実践

※実務経験者

1991年より映像プロダクションを運営する。NHK関連の番組ディレクターとして従事、官公庁ビデオ制作にも携わる。現在は動画制作講師、動画制作コンサルタントとして活動する講師が授業を行う。

【到達目標】

Web広告の中でも動画を使った広告戦略を学び、実際に企画から撮影・編集を行って一人1作品を完成させる。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション 授業説明など
2回目	SNS時代の広告戦略概論 (Web広告とは?なぜ今、動画なのか?科学でも証明される動画の優位性について学ぶ)
3回目	動画制作の基礎(動画制作の手順を学ぶ。動画作品の良し悪しを決める企画と構成について学ぶ。観てもらえるもらえる動画とスルーされる動画の違い)
4回目	企画・構成ワーク(一人1テーマを決めて、企画・構成のワークを行う。自分のテーマに沿って、誰をターゲットに、何のために、何を、どのように見せるのか?を決める。)
5回目	撮影の3要素【カメラワーク】(カメラワークの3要素「構図、ポジション、アングル」の効果について学ぶ。視聴者に作者の意図を伝えるカメラワークを学ぶ。)
6回目	撮影の3要素【照明・音声】(照明の基本=3点照明「キーライト、フィルライト、バックライト」について学ぶ。音の大切さを知る。(音の性質とマイクの特性))
7回目	撮影実習 (実際に撮影をして、基本姿勢やカメラワークの練習、照明、マイクによる実践を学ぶ。)
8回目	動画編集に慣れよう (動画編集ソフトの基本操作を学ぶ。撮影した動画を使って編集の実践を行う。静止画像や動画ファイルの種類と用途、加工方法を学ぶ。)
9回目	音編集/MA~完成 (音編集ソフトを使って音声編集を行う。音声ファイルの種類と用途について学ぶ。現場音やBGM、効果音、ナレーションなどの音を加工編集して、映像と合成して動画を完成させる。)
10回目	動画の保存と公開 (画像や動画、音声のファイル管理について学ぶ。用途別の動画書き出し方と公開方法を学ぶ。著作権や肖像権について学ぶ。)
11回目	作品制作実践① (一人1作品を制作実践する。)
12回目	作品制作実践② (一人1作品を制作実践する。)
13回目	作品発表及び鑑賞会① (一人ずつ自分の作品を発表する。人の作品を鑑賞することによって自分の作品の良いところと欠点に気づくことも学習)
14回目	作品発表及び鑑賞会② (一人ずつ自分の作品を発表する。人の作品を鑑賞することによって自分の作品の良いところと欠点に気づくことも学習)
15回目	総評/まとめ (全ての作品を鑑賞しての意見交換と総評 ※スマホだけで作る動画制作を学ぶ)

準備学習
時間外学習

評価方法

授業内評価 20% ・期末試験(作品評価) 80%

【使用教科書・教材・参考書】 □

動画によるWeb広告戦略 (2019年度版)